

令和 7 年度

授業内容の概要

2 年 次

改訂版

竹早教員保育士養成所

ま え が き

英語の「シラバス(syllabus)」は、ギリシャ語の *sittuba*、「羊皮紙性の書籍のラベル」という意味の言葉を語源としているといわれています。日本では「シラバス」を「講義内容の要目あるいは概要」などのように訳されています。

では、「シラバス」とは何でしょうか。これは学校の教育活動に関する細かな計画書ということになります。シラバスの中には、教科・科目をはじめとする様々な教育活動について、目標、指導内容、使用教材、指導計画、指導方法、評価方法等が記載されています。

平成 29 年 3 月「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が関係大臣から告示されました。また、平成 31 年度より、教職課程では教科の大きくくり化により領域に関する専門的事項に関する科目が新しく開設されました。さらに特別支援に関する科目及び子ども理解に関する科目が加わりました。保育士養成課程では乳児保育の充実と学ぶべき内容の再編が行われました。どちらの課程もより質の高い保育者を養成するためのものです。その意図するところを受けとめ、シラバスの一層の充実が期待されます。

先生方には、それぞれ担当されている授業について、今次の改訂の意図を受けとめると共に、具体的に教室の中での活動を念頭において、作成して下さるようお願いをしました。そのため、授業のテーマ及び到達目標、授業の概要、授業計画が示されています。更にテキストの他に、より深く学ぶための参考文献の紹介もされています。そのことは、1 単位の授業科目について「授業時間外に必要な学修を考慮して」という文言が短期大学設置基準に示されていることから、授業時間外における学習方法の具体的な提示とも関連しています。学生の皆さんは授業に参加するとき、この「シラバス」を活用して、当日の授業の内容を理解してから学習に取り組んで欲しいと期待しています。

先生方には、相互の授業内容の調整に活用していただくと共に、授業アンケート、授業相互参観を通して、学生の主体的な学びの追及に努めてくださるようお願いするところがあります。

授業は教員と学生で作上げる共同作業です。学生は授業に遅刻せず、欠席せずに参加することで、その責任を果たさなければなりません。授業に意欲的に取り組むことで、自らの保育者としての資質の向上に努めてください。

いま保育の場が求めているのは、意欲的・継続的に物事に取り組む保育者です。

学生の皆さんは、2 年間の竹早教員保育士養成所での学習を通して、このような資質の体得に努めて欲しいと期待しています。

竹早教員保育士養成所

令和7年度 学 校 暦

前 期			後 期		
4月	2日 (水) 3日 (木) 4日 (金) 7日 (月) 24日 (木) 27日 (日) 29日 (火)	学業指導(1年・2年) 講師連絡会 入学式 学業指導・定期健康診断(1・2年) 前期授業開始 新入生歓迎会 学校説明会① 昭和の日(平常授業)	10月	5日 (日) 13日 (月) 15日(水)～28日(火) 19日 (日)	開校記念日 スポーツの日(平常授業) 教育実習(幼稚園)(1・2年) 入試B①・指定校①
5月	3日 (土) 4日 (日) 5日 (月) 6日 (火) 11日 (日) 14日 (水) 16日(金)～18日(日) 19日 (月) 19日(月)～6月1日(日) 28日 (水)	憲法記念日 みどりの日 こどもの日 振替休日 学校説明会② 校外学習(2年) 宿泊研修 1年休み 保育実習Ⅰ(施設)(2年) 幼稚園見学実習(1年)	11月	3日 (月) 16日 (日) 23日 (日) 24日 (月)	文化の日(平常授業) 説明会⑩入試B②・指定校②・C① 勤労感謝の日 振替休日(平常授業)
6月	1日 (日) 12日 (木) 15日 (日) 27日 (金) 29日 (日)	学校説明会③ 体育研修 学校説明会④ 後援会総会 学校説明会⑤	12月	14日 (日) 20日 (土) 23日 (火) 24日 (水) 25日 (木) 26日 (金) 27日(土)～1月4日(日)	学校説明会⑫入試B③・C② 保育研究発表会 振替休業日(10月13日分) 振替休業日(11月3日分) 振替休業日(11月24日分) 振替休業日(12月20日分) 冬季休業
7月	6月30日(月) ～13日(日) 13日 (日) 21日 (月) 22日(火)～28日(月) 27日 (日)	保育実習Ⅱ・Ⅲ (保育所・施設を選択)(2年) 学校説明会⑥・入試A①面談 海の日(平常授業) 前期試験(1年) 学校説明会⑦	1月	1日 (木) 5日 (月) 12日 (月) 19日(月)～2月1日(日)	元日 授業開始 成人の日 保育実習Ⅰ(保育所)(1年)
8月	8日 (金) 25日 (月) 25日(月)～9月4日(木) 31日 (日)	学校説明会⑧・入試A②面談 授業開始(2年) 教育実習指導(1年) 学校説明会⑨	2月	2日(月)～5日(木) 8日 (日) 11日 (水) 16日(月)～19日(木) 23日 (月) 27日 (金)	後期試験(2年) 学校説明会⑬・入試C④ 建国記念の日(平常授業) 後期試験(1年) 天皇誕生日 成績判定会議(卒業認定)(2年)
9月	7日 (日) 8日(月)～11日(木) 12日 (金) 15日 (月) 22日 (月) 23日 (火) 25日 (木) 26日 (金) 28日 (日) 29日 (月)	入試A③面談 前期試験(2年) 成績判定会議(1年) 敬老の日 振替休業日(7月21日分) 秋分の日 入試A書類選考 成績判定会議(2年)・保証人会 学校説明会⑩ 後期授業開始	3月	1日 (日) 6日 (金) 11日 (水) 12日 (木) 14日 (土) 16日 (月) 20日 (金) 23日 (月) 26日 (木)	学校説明会⑭・入試C④ 成績判定会議(1年) 学業指導・取得単位通知表交付(2年) 学業指導(1・2年) 卒業式 学業指導・取得単位通知表交付(1年) 春分の日 新入生招集日 学校説明会⑮

教 育 課 程

令和6年度以前に入学

幼兒教育專門課程 幼稚園教員・保育士科

区 分			開設科目名	受業の方法	必修・選 択 の別	1 年次				2 年次				卒業必要時数 (単位数)		
						前期		後期		前期		後期				
						単位数	授業時数	単位数	授業時数	単位数	授業時数	単位数	授業時数			
幼	保	教養科目	教養科目	共 日本国憲法	講義	必修	2	30							30 (2)	
				共 保健体育Ⅰ	講義	必修	1	30							30 (1)	
				共 保健体育Ⅱ	実技	必修			1	30					30 (1)	
				共 情報機器の操作	演習	必修	1	30	1	30					60 (2)	
				共 英語コミュニケーション	演習	必修	1	30	1	30					60 (2)	
				保 言語教育	講義	選択	2	30							1科目選択 30 (2)	
保 国語表現	講義	選択	2	30												
保 生活科学	講義	選択	2	30												
教職に 関する 科目	領域及び 保育内容 の指導法 に関する 科目	告示別表 1 による 教科目	共 子どもと健康	演習	必修						1	30		30 (1)		
			共 子どもと人間関係	演習	必修				1	30				30 (1)		
			共 子どもと環境	演習	必修				1	30				30 (1)		
			共 子どもと言葉	演習	必修				1	30				30 (1)		
			共 子どもと表現	演習	必修				1	30				30 (1)		
			共 健康指導法	演習	必修				1	30				30 (1)		
			共 人間関係指導法	演習	必修						1	30		30 (1)		
			共 環境指導法	演習	必修						1	30		30 (1)		
			共 言葉指導法	演習	必修						1	30		30 (1)		
			共 表現指導法A	演習	必修				1	30				30 (1)		
			共 表現指導法B	演習	必修						1	30		30 (1)		
			共 保育内容総論	演習	必修	1	30							30 (1)		
			保 子育て支援	演習	必修			1	30					30 (1)		
			保 乳児保育Ⅰ	講義	必修	2	30							30 (2)		
			保 乳児保育Ⅱ	演習	必修			1	30					30 (1)		
			保 子どもの健康と安全	演習	必修			1	30					30 (1)		
			保 社会的養護Ⅱ	演習	必修					1	30			30 (1)		
			告示別表 2 による 教科目	保 音楽表現	演習	選択					1	30	1	30	1科目選択 30 (2)	
				保 造形表現	演習	選択					1	30	1	30		
				保 身体表現	演習	選択					1	30	1	30		
				告示別表 2 による 教科目	保 児童文化A	演習	選択					1	30	1	30	1科目選択 30 (2)
					保 児童文化B	演習	選択					1	30	1	30	
					保 保育教材研究	演習	選択					1	30	1	30	
			告示別表 1 による 教科目	共 保育カリキュラム論	講義	必修			2	30					30 (2)	
	共 特別支援保育	演習		必修	1	30	1	30					60 (2)			
	共 教育原理	講義		必修	2	30							30 (2)			
	共 保育者論	講義		必修			2	30					30 (2)			
	幼 教育経営	講義		必修			2	30					30 (2)			
	保 保育原理	講義		必修	2	30							30 (2)			
	保 子ども家庭福祉	講義		必修	2	30							30 (2)			
	保 社会福祉	講義		必修	2	30							30 (2)			
	保 子ども家庭支援論	講義		必修			2	30					30 (2)			
	保 社会的養護Ⅰ	講義		必修			2	30					30 (2)			
	共 発達心理学Ⅰ	講義		必修	2	30							30 (2)			
	告示別表 2 による 教科目	保 子ども家庭支援の心理学		講義	必修			2	30					30 (2)		
		保 子どもの保健	講義	必修	2	30							30 (2)			
		保 子どもの食と栄養	演習	必修	1	30	1	30					60 (2)			
		保 発達心理学Ⅱ	演習	選択					1	30	1	30	1科目選択 30 (2)			
		保 臨床心理学A	演習	選択					1	30	1	30				
		保 臨床心理学B	演習	選択					1	30	1	30				
	告示別表 1 による 教科目	共 子ども理解の理論と方法	演習	必修			1	30					30 (1)			
		幼 幼児教育方法論	講義	必修							2	30	30 (2)			
		幼 教育相談論	演習	必修					1	30	1	30	60 (2)			
		幼 教育実習指導	演習	必修	1	30							30 (1)			
		幼 教育実習	実習	必修			2	90			2	90	180 (4)			
		保 保育実習指導Ⅰ	演習	必修			1	30	1	30			60 (2)			
		告示別表 2 による 教科目	保 保育実習Ⅰ	実習	必修			2	90	2	90			180 (4)		
			保 保育実習指導Ⅱ	演習	選択					1	30			1科目選択 30 (1)		
保 保育実習指導Ⅲ			演習	選択					1	30						
保 保育実習Ⅱ			実習	選択					2	90			1科目選択 30 (2)			
保 保育実習Ⅲ			実習	選択					2	90						
共 保育・教職実践演習			演習	必修							2	60		60 (2)		
大学が独自に設定 する科目			幼 音楽Ⅰ	演習	必修	1	30	1	30				60 (2)			
			自然体験	実習	必修	1	30						30 (1)			
			体育	演習	必修					1	30			30 (1)		
計			必修科目授業時数				540		690		390		360	1950時間		
			選択科目授業時数					30				210		90	330時間	
			必修総単位数				25		27		12		12		76単位	
			選択総単位数				2		0		6		3		11単位	

◇選択科目の履修方法 2年以上在学し、330時間以上（11単位以上）履修するものとする。

*保育実習については、保育実習Ⅱを選択する場合は保育実習指導Ⅱを選択する。保育実習Ⅲにおいても同様とする。

卒業に必要な単位数及び総授業時数	必修単位	選択単位	卒業単位	総授業時数
	76単位	11単位以上	87単位以上	3200時間以上

目 次 (2年次)

◇まえがき

◇学校暦

◇教育課程

◇目 次

◇竹早の教育課程

I 必修科目

II 選択科目

科 目 名	開設 時期	担当教員名	ページ	科 目 名	開設 時期	担当教員名	ページ
子どもと健康	後 期	高 橋 系 子	1	音 楽 表 現	通 年	赤 津 裕 子 白 井 真 里 音 楽 講 師	20
子どもと人間関係	前 期	中 村 香 津 美	2				
子どもと環境	前 期	村 井 あ かり	3	造 形 表 現	通 年	新 名 佐 和 子	21
子どもと言葉	前 期	上 藤 千 香 子 須 釜 久 美 子	4	身 体 表 現	通 年	笠 井 利 恵	22
子どもと表現	前 期	赤 津 ・ 白 井 新 名 ・ 篠 原	5	児 童 文 化 A	前 期	荒 巻 シ ャ ケ	23
健康指導法	前 期	○ 高 橋 順 子	6	児 童 文 化 A	後 期	澤 村 明 子	24
人間関係指導法	後 期	○中村 香津美	7	児 童 文 化 B	前 期	澤 村 明 子	25
環境指導法	後 期	小 川 貴 代 子	8	児 童 文 化 B	後 期	清 水 百 合 香	26
言葉指導法	後 期	清 水 道 代	9	保 育 教 材 研 究	前 期	小 川 貴 代 子	27
表現指導法A	前 期	清 水 道 代	10	保 育 教 材 研 究	後 期	中 村 香 津 美	28
表現指導法B	後 期	赤 津 裕 子 篠 原 秀 夫	11	発 達 心 理 学 II	通 年	梶 山 菜 乃 葉	29
社会的養護II	前 期	渡 井 隆 行	12	臨 床 心 理 学 A	通 年	野 口 菜 実	30
幼児教育方法論	後 期	小 川 貴 代 子	13	臨 床 心 理 学 B	通 年	三 科 千 裕 鳥 羽 翔 太	31
教育相談論	通 年	阿 部 裕 子	14	保 育 実 習 指 導 II	前 期	上 藤 千 香 子 小 川 貴 代 子	32
保育・教職 実践演習	後 期	赤 津 ・ 中 村 上 藤 ・ 高 橋	15	保 育 実 習 指 導 III	前 期	大 井 靖	33
教 育 実 習	後 期	2 年 担 任 他	16	保 育 実 習 II	前 期	2 年 担 任 他	34
保育実習指導 I (施設)	前 期	大 井 靖 子 高 橋 系 子	17	保 育 実 習 III	前 期	2 年 担 任 他	35
保 育 実 習 I (施設)	前 期	2 年 担 任 他	18	音楽表現 音楽講師			
体 育	前 期	高 橋 系 子	19	仕 入 順 子		鉄 矢 千 絵	
				毛 塚 真 美		生 田 美 子	

竹 早 の 教 育 課 程

1. 幼稚園教員・保育士科の教育課程

(1) 基本方針

- ① 幼稚園教員・保育士としての識見・教養を豊かにし、実践的な指導力を身に付けることを目指します。
- ② 竹早教員保育士養成所の教育課程は、幼稚園教諭2種免許状と保育士資格取得に必要な法的根拠に基づいて編成されています。
そのため、教員・保育士として期待される教養、識見を高める科目を始め、必要とされる専門性や技能を修得するための科目が開設されています。また、その中には教育・保育の実際を体験する実習も含まれています。

(2) 授業の方法

- ① 授業は、講義、演習、実験、実習あるいは実技といった形態で行われます。これら授業科目に対する単位数は、短期大学設置基準によるものです。
- ② 講義は、1コマ90分、15回以上の授業をもって2単位、演習は1コマ90分、15回以上の授業をもって1単位となっています。2単位の場合は30コマ以上の授業となります。

2. 開設科目の履修

(1) 教育課程(学則第14条)

竹早教員保育士養成所の教育課程は、教育職員免許法施行規則、児童福祉法施行規則の規定に基づいて、授業科目が開設されています。また、授業科目は必修科目と選択科目に分かれており、2年間でこれらの科目をすべて修得しなければ卒業することはできません。

(2) 単位の認定(学則第18条)

単位習得の認定は、竹早教員保育士養成所の教育課程に示されている開設科目の授業の単位習得に必要な授業時数の5分の4以上の出席者に対して、学力試験、平素の学習状況を総合評価して行います。評価は、優・良・可・不可で表し、優・良・可までが合格です。

(3) 選択科目の履修

① 1年次

学 年	選 択 の 内 容	単 位
1 年 前 期	言語教育・国語表現・生活科学から1科目選択	2単位

② 2年次

学 年	選 択 の 内 容	単 位
2 年	発達心理学Ⅱ・臨床心理学A・Bから1科目選択	2単位
	音楽表現・身体表現・造形表現から1科目選択	2単位
	児童文化A・B・保育教材研究から1科目選択	2単位
	保育実習Ⅱ・保育実習Ⅲから1科目選択	2単位
	保育実習指導Ⅱ・保育実習指導Ⅲから1科目選択	1単位

(4) 科目の再履修

- ① 第1学年で未修得単位があると、成績判定会議で次年次再履修するかが決まります。
第2学年においては、未修得単位があると留年となります。
- ② 音楽Ⅰのみは、2年前期に再履修することができます。
- ③ 再履修・留年の場合は未修得単位の科目を開設している期（前期又は後期）の授業料等を
科目数に応じて納付し、再度当該科目を履修します。なお、留年は2ヵ年までです。

3. 卒業の要件

	必修科目	選択科目	履修時間数
幼稚園教員・保育士科	76単位	11単位以上	2280時間以上

(竹早教員保育士養成所 学則 第19条)

科 目 名	子どもと健康	担当教員	高橋 系子
実施学期	後期		
授業形態	演習	単 位	1単位

授業のテーマ及び到達目標	健康の意義と幼児期の発達と健康課題について理解する。 幼児期の生活習慣について理解し、説明できる。 安全な生活(健康管理・安全管理)について理解し、説明できる。 運動発達の特徴と運動の意義を理解する。
授業の概要	幼児の環境となる社会状況や課題をふまえた上で「健康」の意味・意義を理解し、支えるものとして、 ・幼児の心身の発達 ・基本的な生活習慣 ・安全な生活 ・運動発達と身体活動 の各方面から乳幼児を理解し、実践や指導方法に結びつける。

【授業計画】	
前期	後期
	1 健康の定義と乳幼児期の健康の意義を理解し説明できる 2 幼児期の身体的発達、生理的機能の発達を理解し健康課題を説明できる。(身体的発達について) 3 幼児期の身体的発達、生理的機能の発達を理解し健康課題を説明できる。(生理的機能の発達について) 4 乳幼児期の生活習慣の形成(着脱衣、食事、睡眠、清潔、排泄)の獲得、生活リズムの形成と意義を理解し、説明できる。 5 現在問題となっているからだのおかしさをやその原因を知る。 6 からだのおかしさの解決方法について考え、実践できる方法を練る。 7 幼児の安全教育(リスクとハザード) 生活・交通・週間・災害等安全への意識・態度を育むことの重要性を理解する。 8 幼児の安全教育(リスクとハザード) 具体的な事例や対策を知り、現場で応用できる。 9 乳幼児期の怪我や事故の特徴と応急処置・病気の予防 起こりやすい怪我の特徴と基本的な応急処置。予防対策がわかる。 10 乳幼児期の運動発達の特徴 調整力等の発達と多様な動きの獲得の意味を理解し、説明できる。 11 日常生活における運動とあそびとしての運動。社会の変化と日常の動作の経験。遊びとしての運動との違いを理解する。 12 乳幼児の発達をふまえた上での運動あそびを考え実践する。(実技 身近な運動) 13 乳幼児の発達をふまえた上での運動あそびを考え実践する。(実技 ボールなどの道具を使った運動) 14 動くことを日常に取り入れる工夫や集団で簡単にできる運動あそびを考案し実践する。(実技) 15 まとめ

テキスト	幼稚園教育要領(平成29年告示) 保育所保育指針(平成29年告示) 幼保連携認定こども園教育・保育要領(平成29年告示)
参考文献	「幼児期運動指針」2012年3月 文部科学省HPより 日本幼児体育学会編著「幼児体育 理論編」大学教育出版 2017年 前橋明著 「幼児体育 基礎理論と指導の方法」 樹村房 2008年
授業時間外における学習方法	・日常でみかけた子どもの動きの様子などを観察する。 ・公園などの公共の場での安全管理について考える。
成績評価の方法	・健康の意義と幼児期の発達と健康課題、幼児期の生活習慣、安全な生活(健康管理・安全管理) ・運動発達の特徴と運動の意義については筆記テストにて評価(50%) ・発達に即した運動実践については実技にて評価する。(30%) ・授業への参加意欲や態度 ・課題や提出物の期限厳守(20%)
その他・注意事項	・実技の場合(12,13,14回目)は動きやすい服装で受講。(日常の服、靴のままでは受講できない。見学とする。) ・スマートフォンを服のポケットの中に入れておかないで実技には参加できない。貴重品箱の中に入れる。

科 目 名	子どもと人間関係	担当教員	中村 香津美
実施学期	前期		
授業形態	演習	単 位	1単位

授業のテーマ及び到達目標	現代の乳幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解するとともに、幼児教育で保証すべき保育・教育内容に関する知識を身に付ける。特に領域「人間関係」の指導の基盤となる基礎理論として、人間関係関の発達の視点について学び、他者との関係や集団との関係の中で乳幼児期の人と関わる力が育つことを理解する。
授業の概要	乳幼児を取り巻く人間関係について家庭、園、地域における子どもや大人との関わりを社会的背景の違いを事例を通して課題を考える機会を設け、個人やグループで討議、考察、発表などをし、人間関係について関心を高める。また、領域「人間関係」の視点から、自分の学校生活で求められる人と関わる力との関連についても話し合う。

【授業計画】	
前期	後期
1 現代社会と幼児の人間関係 家庭・地域での経験と幼児教育に期待されるもの	1
2 0歳児における人間関係の発達 身近な大人との関係を基盤として育つ子ども	2
3 1. 2歳児における人間関係の発達 身近な大人との関係を基盤として育つ子ども	3
4 3歳児の遊びや生活の中で見られる人と関わる力の育ち 関係性の育ちや個と集団の育ちを視点にして	4
5 4歳児の遊びや生活の中で見られる人と関わる力の育ち 関係性の育ちや個と集団の育ちを視点にして	5
6 5歳児の遊びや生活の中で見られる人と関わる力の育ち 関係性の育ちや個と集団の育ちを視点にして	6
7 乳幼児の自立心の育ち 「イヤ」「ジブンデ」から始まる自立への道	7
8 幼児期の協同性の育ち 目標を共有し相談しながら計画を立てる力の育ち	8
9 幼児期の協同性の育ち 目標を共有し協力してやり遂げようとする力の育ち	9
10 幼児期の道徳性・規範意識の芽生えと育ち 他者との葛藤体験を通してきまりの必要性を理解する力の育ち	10
11 幼児期の道徳性・規範意識の芽生えと育ち 遊びや生活の中で気持ちを調整し折り合いをつける力の育ち	11
12 乳幼児期の人間関係のひろがり 家庭生活～園生活～地域へと広がる場と関係性の中で	12
13 幼児期に育みたい資質・能力と人間関係 乳児期・幼児期の育ちのつながりを理解する	13
14 幼児期に育みたい資質・能力と人間関係 学童期以降の育ちのつながりを理解する	14
15 保育者の役割・まとめ	15
定期試験	

テキスト	領域「人間関係」－乳幼児期にふさわしい生活で育む－ 河合優子/大澤洋美/佐々木晃編著 ミネルヴァ書房 2024年
参考文献	「幼稚園教育要領解説」 文部科学省 プレーベル館 2018年 「保育所保育指針解説」 厚生労働省編 プレーベル館 2018年 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府 文部科学省 厚生労働省 プレーベル館 2018年
授業時間外における学習方法	【事前学修】テキストのうち、授業内容に該当する部分を読み、自分なりの考えをまとめておくこと 【事後学修】授業の内容を踏まえ、テキスト、配布資料を読み直し、学習内容の定着をはかること
成績評価の方法	定期試験(50%)、毎回の授業の最後に振り返り小レポートを提出(30%)、提出物・発表(20%)
その他・注意事項	共に学ぶ者同士の関わり合いを生かし、グループ活動では、協力して目的を達成すること 意欲をもって取り組む姿勢を保持することも評価の対象とする。提出物は期限厳守

科 目 名	子どもと環境	担当教員	村井 あかり
実施学期	前期		
授業形態	演習	単 位	1単位

授業のテーマ及び到達目標	乳幼児を取り巻く環境は時代に沿い大きく変化してきている。大人社会に育つ子どもが増え、子ども同士の遊びや遊ぶ場所も減少してきた。幼児の生活や遊びが豊かなものとなる大切な環境にかかわりながら、成長発達することについて学ぶ。 1. 幼児が周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、生活に取り入れていく過程から成長が分かる。 2. 季節により自然や生活に変化があり、様々な社会事象、自然の仕組みの変化をとらえ働きかけていくことを学ぶ。 3. 身近な動植物の生命の尊さに気づき、いたわったり大切に思ったりする心の動きを知る。
授業の概要	幼児期の心身の発達、環境(人、物、自然、場所、時間、空間など)から受ける影響が大きい。環境を通して行う教育を(主体性を十分に発揮しての生活)展開するため、それにふさわしい計画を立てる等グループワークを行う。園や地域の文化にふれ、生きるために必要な知識や技能・人とかかわる力を獲得するため等、自己の可能性を開いていくための学びなどを考える。

【授業計画】	
前期	後期
1 子どもにとっての環境とは（環境のとらえ方と考え方）	
2 環境が子どもをつくるということ（今という環境で生活すること）	
3 保育環境の構成（新しい時代に向けた環境とは）	
4 遊びのきっかけになる環境構成（物的・人的環境）	
5 遊びが安定する環境構成（遊びの援助者としての保育者）	
6 豊かな生活を育む環境を考える（遊具・教具・材料・素材）	
7 豊かな生活を育む環境を考える（場や空間）	
8 自然の事象への関心（自然事象と人間の生活）	
9 園行事と社会行事（具体的な展開と配慮事項）	
10 自然環境を生かした活動（季節を視野にいれた環境構成春・夏）	
11 自然環境を生かした活動（季節を視野にいれた環境構成秋・冬）	
12 生活に必要な文字や数に触れる（集合遊びや砂場遊びの事例から）	
13 生活に必要な文字や数に触れる（保育室の環境から）	
14 地域との交流（地域で生活することは）	
15 まとめ	
定期試験	
テキスト	幼稚園教育要領(平成29年度告示) 幼稚園教育要領解説 文部科学省 フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年度告示) 保育所保育指針(平成29年度告示)
参考文献	事例で学ぶ保育内容〈領域〉環境 福元真由美 萌文書林 ワクワク ドキドキが生まれる環境構成 岡上直子 ひかりのくに 授業中に適宜資料を配布する。
授業時間外における学習方法	【事前学修】授業内容に該当する部分を読み、自分なりの考えをまとめておくこと。 【事後学修】授業の内容を踏まえ、参考文献等を読み、学習内容の定着をはかること。
成績評価の方法	定期試験(60%) 授業中の意欲や授業後の提出物(40%)
その他・注意事項	

科 目 名	子どもと言葉	担当教員	上藤 千香子 須金 久美子
実施学期	前期		
授業形態	演習	単 位	1単位

授業のテーマ及び到達目標	領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身に付けるために、次の3点をねらう。 (1) 人間にとって言葉の意義や機能を理解する。 (2)言葉に関する感覚を豊かにする実践について理解する。 (3) 幼児にとっての児童文化財の意義を理解する。		
授業の概要	上記(1)～(3)を達成するために、人間の証と言える「言葉」の意義と機能について理解した上で、幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を身に付ける。		
【授業計画】			
前期		後期	
1 保育内容の「言葉」への理解 人間にとっての言葉の意義			
2 子どもの言葉の育ちとその道筋 言葉の育ちの道筋を知る意味			
3 領域「言葉」のねらいと内容及び評価 保育における「要領」「指針」の全体構造と領域「言葉」			
4 言葉に関する感覚を豊かにする実践 伝わりやすい話し方、モデルとなる保育者の役割について			
5 言葉の育ちを支える保育の実際 0歳児からの言葉の育ちを支える			
6 言葉の育ちを支える保育の実際 1歳から3歳未満児の言葉の育ちを支える			
7 遊びから生まれる表現を支える 言葉の美しさ、楽しさを実際に感じよう（演習）			
8 言葉で考える意欲の育ちを支える 発達に即した言葉遊びの実際と保育実践について			
9 言葉での関わりに配慮を要する子ども 専門機関・医療機関の連携から			
10 言葉をめぐる相談と保護者との連携 言葉の遅れ、発達の遅れの対応			
11 言葉を育て、想像する楽しさを広げる 児童文化財の実際と種類や歴史について			
12 指導案作成から保育へ 児童文化財を取り入れた保育計画と模擬保育			
13 言葉を育て、想像する楽しさを広げる 児童文化財を取り入れた保育計画を実践発表する（演習）			
14 「言葉」をめぐるこれからの課題 多文化社会、IT化への対応			
15 まとめ 定期試験			
テキスト	演習 「保育内容 言葉－基礎的事項の理解と指導法－」 戸田雅美編著 2019年		
参考文献	「幼稚園教育要領解説」文部科学省「保育所保育指針解説」厚生労働省編 フレーベル館 2018年 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府 文部科学省 厚生労働省 フレーベル館 2018年 「保育者のための言葉表現の技術 子どもとひろく児童文化財をもちいた保育実践」古橋和夫編著 萌文書林 2016年		
授業時間外における学習方法	【事前学修】テキストのうち、授業内容に該当する部分を読み、自分なりの考えをまとめておくこと。 【事後学修】授業の内容を踏まえ、テキスト、配付資料を読み直し、学習内容の定着を図ること 「児童文化財」という「教材」の具体化と実践により、学生自らの言葉に対する感覚を磨く。		
成績評価の方法	定期試験(70%)、発表・模擬保育・振り返り(30%)		
その他・注意事項	グループワークを通して学生同士の意見交換から学びを深めたり、協力して目的を達成したりすることに取り組む姿勢も評価の対象とする。提出物は期限厳守。		

科 目 名	子どもと表現	担当教員	赤津 裕子 篠原 秀夫 新名 佐和子 白井 真里
実施学期	前期		
授業形態	演習	単 位	1単位

授業のテーマ及び到達目標	領域「表現」の指導に関する乳幼児の表現行為を解釈するための理論と乳幼児の表現を支えるための知識・技能・表現力を習得する。
授業の概要	領域「表現」のねらい及び内容を踏まえ、乳幼児の発達や表現の生成する過程を理解する。そのために学生自身が身近な環境と十分にかかわり、豊かな表現を経験しながら保育者としての感性を磨くことをめざす。

【授業計画】	
前期	後期
1 領域「表現」のねらい及び内容の理解 2 乳幼児の発達と表現 3 素材の特性を生かした様々な表現 4 豊かな環境と表現の関係 5 身の回りの音・声による音楽遊び 6 言語表現と音楽表現(言葉と音楽) 7 身体表現と音楽表現(運動と音楽) 8 造形表現と音楽表現(絵と音楽) 9 コミュニケーションとしての表現活動 10子どものごっこ遊びと劇的な表現 11表現する子どもの姿から見えるもの 12音楽的場の創造(音楽劇の教材研究) 13音楽的場の創造(音楽的場の企画・準備) 14 発表と省察 15 ICT活用とまとめ 定期試験	
テキスト	コンパクト版保育内容シリーズ⑤「音楽表現」谷田貝公昭監修 2018 幼稚園教育要領(平成29年告示) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示) 保育所保育指針(平成29年告示)
参考文献	新版実践保育内容シリーズ「音楽表現」 谷田貝公昭監修 一藝社 2018年 表現原論ー幼児の「あらし」と領域「表現」フィールドノートからの試論 大場牧夫著 萌文書林 2005年 授業中に適宜資料を配布する
授業時間外における学習方法	【事前学修】事前に出された課題については各自がしっかりと準備をして臨むこと 【事後学修】授業の内容を踏まえ、テキストを読み直し、学習内容の定着をはかること
成績評価の方法	定期試験(50%)、授業の最後に提出をする小レポート(20%)、授業内の発表(30%)
その他・注意事項	授業中ではグループやクラス全体で作品を創る活動も含まれるので、積極的に参加し、協力して作り上げる姿勢をもつこと

科 目 名	健康指導法	担当教員	高橋 順子 (実務経験有り)
実施学期	前期		
授業形態	演習	単 位	1単位

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】幼児期は、生涯にわたる運動全般の基本的な動きを身に付けやすく、心と体が相互に密接に関連し合いながら総合的に発達していく時期であることを踏まえ、健康で安全な生活を送るために必要な知識や指導法に関する理解を深め、実践に生かせるようにする。 【到達目標】領域「健康」とは何かを理論的に学び、保育者としての知識・技能を身に付ける。
授業の概要	領域「健康」の内容や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について、保育実践につながる演習を行い、保育者としての専門性を高める。

【授業計画】	
前期	後期
1 保育内容 領域「健康」の意義(ねらい及び内容の理解)	
2 領域「健康」と保育者の役割(内容と留意点)	
3 乳幼児期の発育・発達と心身の健康	
4 乳幼児期の基本的生活習慣	
5 基本的生活習慣の形成支える援助の構想(計画立案)	
6 基本的生活習慣の形成支える援助の実践(模擬保育)	
7 乳幼児期の運動発達と安全	
8 多様な動きの経験を促す環境構成と援助(教材研究)	
9 健康な心と体を育む保育の構想(計画立案)	
10 健康な心と体を育む保育の実践(模擬保育)	
11 安全教育に関わる指導(計画立案と模擬保育)	
12 防災に関わる指導(計画と模擬保育)	
13 領域「健康」と小学校教育との学びのつながり(協議)	
14 特別な支援を必要とする幼児に応じた援助の在り方(演習)	
15 まとめ	
定期試験	

テキスト	保育内容「健康」—幼児期の教育と小学校教育をつなぐ(ミネルヴァ書房)鈴木みゆき/望月文代編著
参考文献	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
授業時間外における学習方法	【事前学修】次週の学習内容についてテキストを読み、必要な資料や教材を準備する。 【事後学修】授業で学んだことをファイルし、保育現場で役立つ資料作りをする。
成績評価の方法	定期試験(60%)、授業参加意欲・態度・課題提出(40%)により、総合的に評価する。
その他・注意事項	学生同士及び教員とともに、主体的・対話的に積極的に授業に参加することで、保育の計画・実践・振り返りを繰り返す演習を通して学ぶ。
実務経験に関する事項	担当教員は都内公立幼稚園園長の経験があり、子どもの具体的な姿を基に保育者の役割について考える授業を展開する。

科 目 名	人間関係指導法	担当教員	中村 香津美 (実務経験有り)
実施学期	後期		
授業形態	演 習	単 位	1単位

授業のテーマ及び到達目標	領域「人間関係」は、幼稚園、保育所、こども園における生活全体を通しての指導により、幼児に自立心と人と関わる力を養うことをねらいとしている。幼児の「人と関わる力」は、保育者との信頼関係を基盤として育つ。そこで、保育者として人と関わることを意味を捉え保育者自身が関わりを通して喜びをもつとともに、幼児に対する援助の在り方を学習する。領域「人間関係」のねらい及び内容について、幼児の姿と保育実践とを関連させて理解を深める。その上で、幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し実践する方法を身に付ける。
授業の概要	領域「人間関係」の13の内容や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について、事例を通して、幼児のその時の思いや、保育者としての関わり方を個人やグループで検討する。他領域との関連づけた活動を考え、望ましい関わり合いの場を設定する。

【授業計画】	
前期	後期
1	1 教科のねらい、子どもの育ちと領域「人間関係」 ねらい及び内容の理解
2	2 人との関わりが育つ道筋（0歳児～5歳児） 保育者との信頼関係を基盤に園生活が安定する援助の在り方
3	3 自立心を育む援助（グループ討議） 3, 4, 5、歳児の育ちの姿と環境構成、必要な援助を考える
4	4 遊びの中で様々な感情を経験し、自他の気持ちに気付き調整する 事例「けんか・自己主張・仲間外れ・葛藤やつまづきの体験」から 保育者の援助を考える
5	5 保育者との信頼関係と園生活の安定を図る援助の在り方 事例「友達と関われない子・型はめにならないように」から 保育者の援助を考える
6	6 きまりをめぐる様々な幼児の葛藤援助 家庭生活、園生活、社会生活のきまりと幼児に経験させたい内容
7	7 ルールのある遊びと保育の援助 遊び中で葛藤しながら、自分たちでルールを考える
8	8 個と集団の育ちを考える 遊びや生活の中で幼児同士の関わり合いを生かすような間接的な援助を考える
9	9 人と関わる力を育む保育構想における情報機器及び 教材の効果的な活用法を理解する。
10	10 幼児にとって意味のある行事のねらいと活動内容を考える 協同的な活動の長期的な展開を考える
11	11 小学校との交流活動を意図した指導案を作成する(情報機器の活用) 相互主体的で互恵的活動の工夫と展開を考える
12	12 小学校以降の生活や学習で生かされる力 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を軸に小学校との接続期を考える
13	13 地域の中の幼稚園、保育所、子ども園 （地域、高齢者から学ぶこと、世代間交流の意義と課題）
14	14 多様な人、多様な子どもとの関わりの中で育つ 異年齢保育、他国籍の幼児との関わり中で育つ援助の仕方を考える
15	15 領域「人間関係」指導法を学んでまとめ
定期試験	定期試験

テキスト	領域「人間関係」一乳幼児期にふさわしい生活で育むー 河合優子/大澤洋美/佐々木晃編著 ミネルヴァ書房 2024
参考文献	「幼稚園教育要領解説」 文部科学省 「保育所保育指針解説」 厚生労働省編 プレーベル館 2018年 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府 文部科学省 厚生労働省 プレーベル館 2018年 「子どもを見る目が広がる保育事例集」 高梨珪子、塚本美知子編著 東洋館出版社 2007年
授業時間外における学習方法	【事前学修】テキストのうち、授業内容に該当する部分を読み、自分なりの考えをまとめておくこと 【事後学修】授業の内容を踏まえ、テキスト、配布資料を読み直し、学習内容の定着をはかること
成績評価の方法	定期試験（50％）、毎回の授業の最後に振り返り小レポートを提出（30％）、提出物・発表（20％）
その他・注意事項	共に学ぶ者同士の関わり合いを生かし、グループ討議や活動では、協力して目的を達成すること 意欲をもって取り組む姿勢を保持することも評価の対象とする。提出物は期限厳守。
実務経験に関する事項	「人間関係」の13の内容や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について事例をもとに個人やグループで検討する演習である。数多くの都内の幼稚園に勤務した経験から、幼児の思いや保育者の関わり方について具体的な場面を基に授業を展開する。

科 目 名	環境指導法	担当教員	小川 貴代子
実施学期	後期		
授業形態	演習	単 位	1単位

授業のテーマ及び到達目標	子どもの思考力の芽生えを大切にし、子どもの主体性を育む「環境」のあり方を理解するとともに、保育環境の中で保育者が果たすべき役割について学修する。また、領域「環境」と、他の領域との関係性を理解し、乳幼児期の子どもの発達を掴み、子どもたちのより確かな発達を支える為の「環境」のあり方を生活やあそびをとおして考察する。
授業の概要	現代社会の子どもを取り巻く環境を踏まえ、保育における今日的課題と、領域「環境」のねらいと内容を理解し、子どもたちのより確かな発達を支える為の「環境」のあり方を考察する。参考資料だけでなく、グループ活動や意見交換なども積極的に行い、領域「環境」についての理解を深める。また、製作や保育教材などから、子どもの発達についても理解を深め、環境の重要性を認識し、実際に保育環境を構成できる力を育成していく。

【授業計画】	
前期	後期
1	1 「環境」基礎知識・保育の基本と保育内容「環境」(ねらい、内容について)
2	2 領域「環境」のねらい、内容の展開の実際①(園内活動)(園内で行われる幼児の遊びや活動の事例から)
3	3 領域「環境」のねらい、内容の展開の実際②(園外活動)(園外で行われる身近な施設や情報にかかわる活動の事例から)
4	4 子どもの発達と環境(乳幼児期にふさわしい環境と環境構成について)
5	5 身のまわりの物に愛着をもつ保育の実際①(指導計画の立案、素材の収集)
6	6 身のまわりの物に愛着をもつ保育の実際②(製作、模擬保育、振り返り)
7	7 領域「環境」における情報機器及び教材の活用法について
8	8 自然を取り入れた遊びの教材研究(風を利用した遊び・木の実や木の葉を使用した遊具製作)
9	9 子どもにとっての身近な文化(生活と遊びの構想)
10	10 領域「環境」と小学校以降の教科等のつながり(数量・図形等に関わる保育の実際・標識・文字等に関わる保育の実際)
11	11 自然に親しみ、植物に触れる保育の実際①(指導計画の立案、芝生人形の製作)
12	12 自然に親しみ、植物に触れる保育の実際②(栽培観察、記録、実践の省察)
13	13 身近な自然物や物にかかわる保育の評価と改善(模擬保育の振り返り)
14	14 保育内容「環境」の課題と展望(ESD、ユニバーサルデザイン・インクルーシブ保育)
15	15 まとめ 定期試験

テキスト	幼稚園教育要領(平成29年告示) 幼稚園教育要領解説 文部科学省 フレーベル館(平成30年3月) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示) 保育所保育指針(平成29年告示)
参考文献	体験する調べる考える 領域「環境」 田宮 縁 著 萌文書林 2018年 DVD映像で見る 主体的な遊びで育つ子ども～あそんでぼくらは人間になる 大豆生田 啓友・中坪 史典 編著 エイデル研究所 2016年 授業中に適宜資料を配布する。
授業時間外における学習方法	【事前学修】 授業内容を踏まえ、事前に「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園・保育要領」を読んでおくこと。 【事後学修】 授業内容を踏まえ、配布資料を読み直し、課題を行うこと。
成績評価の方法	定期試験(40%)、レポート・教材の提出(40%)、授業態度・発表(20%)
その他・注意事項	授業では聴くことだけではなく、演習での学生間の意見交換や考察し合う時間も大切な学びになりますので、積極的な姿勢で授業に参加し、学びを深めましょう。

科 目 名	言葉指導法	担当教員	清水 道代
実施学期	後期		
授業形態	演習	単 位	1単位

授業のテーマ及び到達目標	領域「言葉」は、「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う」ことを目指すものである。本授業の到達目標は以下の2点である。 (1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。 1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 2) 領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 4) 領域「言葉」に関わる幼児が経験し身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりを理解している。 (2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。 1) 幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解している。 2) 領域「言葉」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。 3) 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 5) 領域「言葉」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。
授業の概要	乳幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育、保育所保育において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、乳幼児の発達に即して主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。また、乳幼児の実態に応じた生活や遊びを総合的に捉えた保育内容の展開や指導法を学ぶ。

【授業計画】	
前期	後期
1	1 幼稚園教育の基本と領域「言葉」のねらい及び内容
2	2 子どもの言葉が育つ道すじ(1)0.1.2歳児を中心に
3	3 子どもの言葉が育つ道すじ(2)3.4.5歳児を中心に
4	4 言葉を育む保育環境(1)話したい意欲を支える援助
5	5 言葉を育む保育環境(2)生活や遊びを通して
6	6 言葉を育む保育環境(3)受け止める、受け止められる関係
7	7 豊かな言葉を育む保育者の援助(1)言葉による伝え合いを支える
8	8 豊かな言葉を育む保育者の援助(2)文字や体で伝える楽しさを支える
9	9 児童文化財で広がる世界(1)絵本・紙芝居・素話の実践と保育
10	10 児童文化財で広がる世界(2)手作りカルタの活動と保育
11	11 子どもの言葉を育む保育の実際 ～模擬保育:言葉遊びや絵本の読み聞かせの情報機器や教材の活用し子どもへの対応を考える
12	12 子どもの言葉を育む保育の構想 ～具体的な場面を想定した指導案の作成
13	13 子どもの言葉を育む保育の実践～模擬保育の実施
14	14 子どもの言葉を育む保育の評価と改善～模擬保育の振り返り
15	15 まとめ:「言葉」をめぐる今日的課題 ～特別な配慮が必要な幼児、「言葉」に関わる保育実践(小テスト)
	定期試験
テキスト	「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」
参考文献	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 授業中に適宜資料を配布する。
授業時間外における学習方法	【事前学修】 授業計画にて予め内容を確認し、下調べをするなど積極的に参加すること。 【事後学修】 資料や記録を振り返り、理解を深めるようにすること。
成績評価の方法	コメントシート(20%)、提出物、授業への参加度(グループ討議・模擬保育など)(40%)、授業内小テスト(40%)
その他・注意事項	授業に必要な道具や指定された材料は必ず持参すること。 資料、記録等を整理・保管するファイルなどを各自用意すること。

科 目 名	表現指導法A	担当教員	清水 道代
実施学期	前期		
授業形態	演習	単 位	1単位

授業のテーマ及び到達目標	領域「表現」は、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い創造性を豊かにすることを目指すものである。本授業の到達目標は以下の2点である。 (1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。 1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 2) 領域「表現」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 4) 領域「表現」に関わる幼児が経験し身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりを理解している。 (2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。 1) 幼児の心情、認識、思考及び動き等視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 2) 領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。 3) 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 5) 領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。
授業の概要	保育内容の各領域を総合的に捉え、また、表現活動を中心に乳幼児の実態に応じた生活や遊びを総合的に捉えた保育内容の展開や指導法を学ぶ。その際、身体の動きや五感、様々な素材や色、形、質感など、表現のツールを用いて表現活動の特徴や面白さを確認し、応用や発展を考え、総合的な表現活動を構想、計画、指導、実践する力を身に付ける。

【授業計画】	
前期	後期
1 領域「表現」のねらい及び内容～具体的な子どもの姿を通して考える 2 表すことと現れることから子どもの表現を支える援助を考える 3 子どもの表現活動と小学校の教科とのつながり具体的な実践から考える 4 保育研究における子どもの表現についてインターネットを活用し動向や課題を知る 5 インクルーシブ保育と子どもの表現を支える援助 6 アート教育と表現活動～五感を使った表現活動の具体的な実践から 7 身体を使った表現活動の実践～活動の特徴や面白さを考える 8 自然物を用いた幼児の総合的な表現活動と援助 9 身近な素材を用いた表現活動～素材の特徴や活用方法を考える 10 子どもの表現活動や遊びを広げる環境構成や教材の提示方法など、教材研究について考える。 11 表現における情報機器及び教材の活用法について事例を通して学び、保育構想に活用できるアイデアを考える。 12 総合的な表現活動を実践するためにグループで作成した指導案に沿って教材研究を深める 13 総合的な表現活動を計画に沿って保育現場で実践する 14 保育現場での実践を振り返り、評価と改善について考える 15 まとめ:総合的な表現活動の実践を通して、改めて保育の場における表現活動について考える(小テスト) 定期試験	
テキスト	「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」
参考文献	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」授業中に適宜資料を配布する。
授業時間外における学習方法	【事前学修】 授業計画にて予め内容を確認し、下調べをするなど積極的に参加すること。 【事後学修】 資料や記録を振り返り、理解を深めるようにすること。
成績評価の方法	コメントシート(20%)、提出物、授業への参加度(グループ討議・模擬保育など)(40%)、授業内小テスト(40%)
その他・注意事項	授業に必要な道具や指定された材料は必ず持参すること。 資料、記録等を整理・保管するファイルなどを各自用意すること。

科 目 名	表現指導法B	担当教員	赤津 裕子 篠原 秀夫
実施学期	後期		
授業形態	演習	単 位	1単位

授業のテーマ及び到達目標	領域「表現」について、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されたねらい及び内容を理解し、乳幼児の発達に即し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を習得する。
授業の概要	身体の動きや様々な感覚・音・リズム・ものの色や形や質感など、総合的な表現活動を構想・計画・指導・実践する力を身に付ける。乳幼児の表現を支えるための知識として、乳幼児の発達、育みたい資質・能力そして評価についての在り方を考える。

【授業計画】	
前期	後期
	1 幼児教育における領域「表現」のねらい及び内容 2 乳幼児の発達と表現活動で育みたい資質・能力 3 子どもの表現活動における評価の考え方 4 「表現」と他領域との関連 5 幼児期の表現活動と小学校での学びの連続性 6 豊かな表現のための環境構成 7 インクルーシブ保育における表現活動の可能性 8 表現活動における情報機器の活用法 9 音楽教育メソッドによる保育実践の動向 10 音楽教育メソッドによる保育実践の動向 11 総合的な表現活動の実践(教材研究) 12 総合的な表現活動の構想(指導案作成) 13 総合的な表現活動の実践(模擬保育) 14 総合的な表現活動の評価と改善(振り返り) 15 子どもの表現をめぐる課題と展望 定期試験
テキスト	コンパクト版 保育内容シリーズ⑤「音楽表現」谷田貝公昭監修 一藝社 2018年 幼稚園教育要領(平成29年告示) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示) 保育所保育指針(平成29年告示)
参考文献	新版実践保育内容シリーズ「音楽表現」 谷田貝公昭監修 一藝社 2018年 遊びを中心とした保育 保育記録から読み解く「援助」と「展開」 河邊貴子 萌文書林 2017年 授業中に適宜資料を配布する
授業時間外における学習方法	【事前学修】事前に出された課題については各自がしっかりと準備をして臨むこと 【事後学修】授業の内容を踏まえ、テキストを読み直し、学習内容の定着をはかること
成績評価の方法	定期試験(50%)、授業の最後に提出をする小レポート(20%)、模擬保育(15%)、授業内の発表(15%)
その他・注意事項	

科 目 名	社会的養護Ⅱ	担当教員	渡井 隆行
実施学期	前期		
授業形態	演習	単 位	1単位

授業のテーマ及び到達目標	本科目では、保育士として社会的養護を必要とせざるを得ない家庭・児童・若者と携わるようになるために以下の3項目について学ぶ。 1. 社会的養護について理解し、現状から課題を見つけ、解決に至る方法を考えられるようになる。 2. 社会的養護を必要とせざるを得ない家庭・児童・若者に携わる為の意識や知識、技術を獲得する。 3. 保育士としての自覚を持てるように、自己理解を深める。
授業の概要	こども家庭庁等の資料、社会的養護に関係する映像、実際に現場で働いている職員や社会的養護を経験した当事者の発表等を用いながら学習を進める。また、子どもに関わる職業に就くための意識、知識、技能につながるような個人ワークやグループワーク等を多く含んだ授業にする。また、自己理解、自己覚知、自己受容につながるワークにも取り組み、保育士以外の業種からも求められる人材を目指す。

【授業計画】	
前期	後期
1 社会的養護における子どもの理解	1
2 施設養護における日常生活支援	2
3 施設養護における治療的支援	3
4 施設養護における自立支援	4
5 社会的養護におけるアフターケア	5
6 家庭養護の生活特性および実際	6
7 継続支援	7
8 社会的養護とファミリーソーシャルワーク	8
9 アセスメント個別支援計画の作成	9
10 記録及び自己評価	10
11 保育の専門性に関わる知識・技術とその実践	11
12 社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践	12
13 社会的養護における家庭支援	13
14 社会的養護で働くということ	14
15 まとめ	15
定期試験	

テキスト	特になし
参考文献	特になし
授業時間外における学習方法	日常の変化を意識し、それを他者と共有することを心掛ける。 自身の言動がどのような理由・感情・思い出で、でた言動なのかを振り返り、理解する。 調理、洗濯、掃除等を日々行い、自身の力で生活を成り立たせてみる。
成績評価の方法	課題提出(40%)、授業態度(40%)、定期試験(10%)
その他・注意事項	誰のために保育士になるのか？何のために保育士になるのか？保育士になって達成したいことは何か？を考える。

科 目 名	幼児教育方法論	担当教員	小川貴代子
実施学期	後期		
授業形態	講義	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	幼児教育で求められる「環境による教育」「遊びによる総合的な指導」及び「一人一人の発達の特性に合った指導」について理解し、乳幼児期に望ましい幼児教育の方法に関する基礎理論を学ぶ。また家庭・地域・小学校との連携の在り方について考え、生活及び発達の連続性を踏まえた教育の内容を理解するとともに、教育メディアや情報機器の活用を通して、保育におけるその可能性と課題についても理解を深める。
授業の概要	保育の基本として「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に則り、幼児期にふさわしい教育方法の要点を論ずる。次に基本的な理論と実践的な理論の統合を図るために実践事例、ビデオ、資料等から、保育のイメージをつかむ。その上でさまざまな保育内容の指導・援助法について理解を深める。また幼児期の保育を進める上でコンピューター等の情報機器や視聴覚教材の活用法などについて体験を通して理解する。

【授業計画】	
前期	後期
1	1 幼児期にふさわしい教育方法の基礎理論① (「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」にみる教育方法)
2	2 幼児期にふさわしい教育方法の基礎理論② (幼児の生活・遊びと保育)
3	3 子ども理解と教育方法(環境による教育の実際)グループワーク
4	4 子ども理解と教育方法(環境による教育の実際)発表
5	5 発達の特性に合った指導方法
6	6 教育実践と教育方法① (様々な教育方法についての調べ学習・PC使用)
7	7 教育実践と教育方法② (様々な教育方法についての調べ学習・発表)
8	8 教育実践と教育方法③ (幼児教育・保育に活かす情報メディア・保育における記録とメディア)
9	9 教育実践と教育方法④(遊びを通した総合的指導)
10	10 教育実践と教育方法⑤(教材の意味・保育の計画)
11	11 教育方法と評価(保育の計画・実践・評価の実際)
12	12 保育形態と効果
13	13 幼児期の教育と小学校教育の連関
14	14 家庭や地域と連携した教育
15	15 幼児教育の現状と課題・まとめ 定期試験
テキスト	幼稚園教育要領(平成29年告示) 幼稚園教育要領解説 文部科学省 フレーベル館(平成30年3月) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示) 保育所保育指針(平成29年告示)
参考文献	「幼児教育方法論」 戸江茂博 監修 田中卓也・松村 齋・小島千恵子 編著 学文社 DVD映像で見る 主体的な遊びで育つ子ども～あそんでぼくらは人間になる 大豆生田 啓友・中坪 史典 編著 エイデル研究所 2016年 「保育の計画と評価を学ぶ」 加藤敏子・岡田耕一 編著 萌文書林 授業中に適宜資料を配布する。
授業時間外における学習方法	【事前学修】 授業内容を踏まえ、事前に「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を読んでおくこと。 【事後学修】 授業内容を踏まえ、配布資料を読み直し学習すること。出された課題は提出期限を守ること。
成績評価の方法	定期試験(50%)、レポート・教材の提出(30%)、授業態度・発表(20%)
その他・注意事項	授業では聴くことだけではなく、グループワークを通して学生間の意見交換や考察し合う時間も大切な学びになりますので、積極的な姿勢で授業に参加し、学びを深めましょう。

科 目 名	教育相談論	担当教員	阿部 裕子
実施学期	通年		
授業形態	演習	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	園における様々な保育・教育活動において、カウンセリングマインドに基づいた子どもへの向き合い方、および保護者の子育てへの支援のあり方についての具体的・実践的な力を身につける。 子どもや保護者に対して真に人格尊重への精神を身につけ、日々の活動を通して確かな信頼を得て望ましい保育・教育活動を行うことを可能とする知識と感性、およびスキルを身につける。
授業の概要	子どもの健全な成長を支援するカウンセリングの理論と方法、および保育・教育現場の今日的課題について事例を研究したり、グループ活動による相互学習を行う。さらに、ロール・プレイング、構成的グループエンカウンターその他の演習を通して保育者としての自己理解を深め、教育相談の力量と感性を養う。

【授業計画】	
前期	後期
1 「教育相談・カウンセリング」とはなにか(第1章)	1 登園拒否の理解と指導Ⅰ(第8章)《話を聴く》
2 子育ての教育相談(第1章)	2 登園拒否の理解と指導Ⅱ(第8章)《非言語的コミュニケーション》
3 園における教育相談の意義(第1章)《保護者の相談》	3 社会性の発達Ⅰ(第9章)《構成的グループエンカウンター》
4 子どもの発達への援助Ⅰ(第2章)《ロールプレイング、ストローク》	4 社会性の発達Ⅱ(第9章)《事例研究》
5 子どもの発達への援助Ⅱ(第3章)《知能テスト》	5 遊びの発達Ⅰ(第10章)《プレイセラピー》
6 子ども理解とは何か(第4章)《アセスメントとは何か》	6 遊びの発達Ⅱ(第10章)《ジグソーパズル、共同絵画》
7 子ども理解の方法(第4章)	7 発達障害の理解(第11章)《心のバリアフリー》
8 「自己理解」とは何か(第4章)《描画テスト》	8 子育て支援Ⅰ(第12章)《ピアサポート》
9 カウンセリングの理論(第5章)《面接》	9 子育て支援Ⅱ(第12章)《支援プログラム、環境の調整》
10 カウンセリングの基本的な技法(第5章)《スクイグル法》	10 保護者への支援Ⅰ(第13章)《エゴグラム》
11 「カウンセリング・マインド」とは何か(第6章)《SCT,他》	11 保護者への支援Ⅱ(第13章)《親との面接》
12 保育者の成長(第6章)《ダブルバインド》	12 地域社会、関係機関との連携(第14章)《ネットワークマップ》
13 園における教育相談組織(第7章)《教育相談組織》	13 保育者としての成長(第15章)《ストレス・チェック》
14 事例研究会の活用(第7章)《事例研究会の実際》	14 保育者のメンタルヘルス(第15章)
15 まとめ	15 まとめ
定期試験	定期試験

テキスト	適宜資料を配布
参考文献	「子育て・保育カウンセリングワークブック」清水勇・阿部裕子共著 学事出版 2018 発達心理学(改訂・保育士養成講座編集委員会) DSM-5精神疾患の分類と診断の手引き(日本精神神経学会)
授業時間外における学習方法	・サブノートによる復習とまとめ ・演習をふまえたレポートの作成と提出
成績評価の方法	・前期後期の定期考査結果(70%) ・演習のレポート、授業最後の確認テスト(30%)
その他・注意事項	・教育相談の授業は自己発見・気づき等を通して感性を磨く授業です。授業への真摯かつ積極的な参加が必須です。 ・授業への出席を重視します。

科 目 名	保育・教職実践演習	担当教員	赤津 裕子 中村 香津美 上藤 千香子 高橋 順子
実施学期	後期		
授業形態	演習	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	科目の特性である「学びの軌跡の集大成」という位置づけを意識しこれまで学んだことを確認し、将来、保育者になるにあたって、何が課題であるかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能を補い、定着を図ることがねらいである。 到達目標は次に示す4点である。 1. 保育者としての使命感や責任感について理解する。2. 保育者としての職責や組織の一員としての自覚や関係者との人間関係を築くことができる。3. 乳幼児の発達について理解する。4. 遊びを通した保育の構想について具体的な方法や技能を習得する。
授業の概要	1. 教育実習(幼稚園)2か所、保育実習(保育所、福祉施設)3か所での実習経験を振り返り、講義・グループ討論を行う。 2. 幼児を援助するための技術・方法について、再度整理し、保育内容についての指導力・幼児理解を高めるための講義、グループ討論、ロールプレイングを通して、資質の向上を図る。 3. 保育に携わる人間としての資質向上のため、さらに、卒業後の職場への適応を図るための学習活動を展開する。 担当教員を中心に、内容を整理し、教員の連携・協力を密に行い、学生の学習効果を高める。

【授業計画】	
後期	
1.オリエンテーション(既習事項と振り返り)	16.認定こども園での保育補助活動(現地調査)
2.保育者に役割、服務について	17.認定こども園での保育補助活動(実践)
3.子ども理解(事例研究)	18.保育補助活動の振り返り(グループ討論)
4.子ども理解(ロールプレイング)	19.保育補助活動での学び(発表)
5.子ども理解の重要性(グループ討論・発表)	20.保育内容の指導(絵本・手遊び・製作等)
6.職場での人間関係(組織の一員としての自覚)	21.指導案の作成
7.職場での人間関係(ロールプレイング)	22.模擬授業(ロールプレイング)
8.保護者との人間関係(事例研究)	23.保育の振り返り
9地域の関係者との連携・協力(事例研究)	24.保育教材研究(幼児にふさわしい教材について)
10学級経営案の作成	25.保育教材の作成
11学級経営案について(グループで討議)	26.保育教材によるパフォーマンス
12幼稚園での保育補助活動(現地調査)	27.保育の構想と教材研究について(グループ討論)
13幼稚園での保育補助活動(実践)	28.保育者の在り方について(自己の振り返り)
14保育所での保育補助活動(現地調査)	29.保育者としての今後の課題(グループ討論・発表)
15保育所での保育補助活動(実践)	30.まとめ(これまでの学びと課題について)
	定期試験
テキスト	「幼稚園教育要領」(平成29年告示)「幼稚園教育要領解説」 文部科学省 「保育所保育指針」(平成29年告示)「保育所保育指針解説」 厚生労働省編 フレーベル館 2018年 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成29年告示)
参考文献	必要に応じてプリントを配布。
授業時間外における学習方法	教職課程の授業の補いとして、自己の課題を見極め自覚し、課題目標と期限を定めて、日々努力をする
成績評価の方法	定期試験50% 自己カルテ20% 教材等の作品及び発表30%
その他・注意事項	補助活動については、園の都合などで出席できない場合は、課題を提出する。

科 目 名	教育実習	担当教員	2年担任
実施学期	後期		
授業形態	実習	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	幼稚園教育の実際を体験し、幼児の心身の発達と遊びを具体的に理解するとともに、幼稚園教育の課題を把握し、幼稚園教諭としての使命感を養う。幼稚園教育要領に定められた幼稚園の教育内容を実際に体験し、理解する。幼児と接し、活動や心身の発達状況等幼児理解を深める。幼児への場に応じた言葉かけなどの対応の仕方を学ぶ。幼稚園教諭の職務内容を理解し、理想の保育者像をもつことができる。
授業の概要	現場で経験を積むことにより、幼稚園の在り方や、保育者の在り方について学ぶ。 授業で学んだ内容と現場での体験を関連づけて生かす。

【授業計画】	
前期	後期
	○見学・観察実習 ・幼稚園の要覧などを通じて、実習園の教育方針を知る。 ・実習園の人的環境及び地域環境等の諸条件について知る。 ○参加・指導実習(部分) ・指導案を作成し、指導教師の指導を受けて実践する。 ・指導案と実際指導の関係を指導終了後、検討する。 ・疑問点や問題点について指導教師の指導を受ける。 ・反省点の指導・助言を記録し、次へ生かす。 ○指導実習(責任) ・学級を担任し、1日の教育を実践する。 ・登園から降園までの指導案の作成と教材・教具の準備を行う。 ・時間の配分、適正・円滑な教育活動、幼児の活動の調整等を行う。 ・幼児の個性、集団の特性等に着眼して教育活動を行う。 ・教職員や保護者への対応等を学び、実践する。 ・教育実習日誌を整理し、指導教師に提出する。

テキスト	・「教育実習の手引き」竹早教員保育士養成所 ・DVD「教育実習生の日」
参考文献	・「実習ワーク」 朋文書林 ・「実習日誌の書き方」 朋文書林
授業時間外における学習方法	・日常の中で目にする子どもの様子を観察する。 ・絵本や紙芝居などの教材を探し、演じることができるよう練習する。 ・指導実習の教材を用意し、事前に完成させたり、実際に実行できるか確認しておく。(教材研究)
成績評価の方法	・実習園による評価結果に基づく
その他・注意事項	・欠席や遅刻、早退については補充を行う。ただし、3日以上欠席の場合は再実習となる。

科 目 名	保育実習指導 I (施設)	担当教員	高橋系子・大井靖
実施学期	前期		
授業形態	演習	単 位	1単位

授業のテーマ及び到達目標	施設の役割・機能を理解し、実習意欲を高め、自己の実習課題を明確にする。
授業の概要	利用者の理解を深め、実態に応じた養護の在り方を学ぶ。

【授業計画】	
前期	後期
1 実習のねらいと内容	
2 実習先の確認	
3 施設の役割・機能	
4 さまざまな施設の役割・機能	
5 利用者の理解	
6 養護の一日の流れ	
7 養護の知識・技能	
8 保育士の業務・倫理	
9 実習課題の設定	
10 実習の心得	
11 実習日誌の書き方	
12 実習指導案の書き方	
13 保育実習の振り返り・お礼状	
14 今後の自己課題	
15 まとめ	

テキスト	「保育実習の手引き」竹早教員保育士養成所
参考文献	「施設実習パーフェクトガイド」わかば社
授業時間外における学習方法	実習教材の作成
成績評価の方法	期末テスト・授業態度等を総合的に評価
その他・注意事項	

科 目 名	保育実習Ⅰ（施設）	担当教員	2年担任
実施学期	前期		
授業形態	実習	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	児童福祉施設の生活に参加し、利用者への理解を深めるとともに、児童福祉施設の機能とそこでの保育士の職務について学ぶ。
授業の概要	利用者の生活を理解し、養護の実際を体験する。そして、利用者の生活全般について、自立のための援助を行う。さらに、職員の役割分担や連携についても理解し、協力して自分の仕事をしていくことについても学ぶ。

【授業計画】	
前期	後期
1 実習施設についての理解 2 養護の一日の流れの把握と参加 3 施設の機能の理解 4 利用者の観察と利用者との関わり 5 利用者の理解 6 援助計画の理解 7 生活の援助、養護の体験 8 養護技術の習得 9 職員間の役割分担とチームワークの理解 10 利用者のニーズと自立のための支援 11 部分実習指導案の作成と実施 12 施設の養護計画についての理解 13 職務の記録や連絡についての実際 14 家庭・地域との連携 15まとめ	

テキスト	「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 「保育実習の手引き」 竹早教員保育士養成所
参考文献	「施設実習 パーフェクトガイド」 守巧、小櫃智子、二宮祐子、佐藤恵著 わかば社出版
授業時間外における学習方法	実習教材の準備
成績評価の方法	実習態度や実習成果等を総合的に判断。実習先の評価（実習態度、実習内容、実習記録）を踏まえて。
その他・注意事項	実習課題を明確にする。

科 目 名	体 育	担当教員	高橋系子
実施学期	前期		
授業形態	演習	単 位	1単位

授業のテーマ及び到達目標	・幼児期の運動遊び、身体活動を知る ・乳幼児期の発達に即した運動あそびを考え、援助できる指導技術を学び、指導案を立てたり、保育(模擬保育)することができる。 ・自身の体力向上や健康管理の方法を学び、具体的な対策がたてられる。 ・協力しあって創意工夫し、あそびをうみだすことができる。
授業の概要	・準備運動として体ほぐしの運動やコーディネーショントレーニングなどは随時取り入れる。 ・様々な形態の運動に触れて、楽しさを見出し、それを子どもや他人に伝えられるようにする。 ・安全管理について意識をもつ ・体育科教育法に基づいた四大教師行動をもとに、運動あそびの進め方のノウハウについて実践を通して学ぶ。

【授業計画】	
前期	後期
1 オリエンテーション（授業のねらいの理解、注意事項など） ・人の生活と運動	
2 安全管理 リスクとハザード	
3 バレーボール ルール確認	
4 バレーボール ルール確認 チーム決定 係決定	
5 バレーボール 基礎技能の習得 簡易ゲーム チーム別の練習	
6 バレーボール チーム別 技術分析と練習方法について考える。	
7 水遊びと事故 プールの基準(講義)	
8 模擬授業の準備。留意点。グループ分け。指導案作成時の注意点 「4大教師行動」を基に考える。	
9 模擬授業(1) 模擬授業の実践 流れについて考える	
10 模擬授業(2) 活動をすすめるにあたっての注意点(準備や環境整備)	
11 模擬授業(3) 指導案と活動の対応	
12 模擬授業(4) 模擬授業全体を通しての視点をもって観察する。	
13 鬼遊び 特徴と効果 種類 鬼ごっこ ふやし型の鬼ごっこなど	
14 バスケット型の運動あそび ポートボール バスケットボール	
15 まとめ（試験）	

テキスト	「保育と幼児期の運動あそび」 岩崎洋子編 萌文書林 プリント
参考文献	「幼児体育」前橋明著 大学教育出版 「幼児期運動指針」文部科学省 「体育科教育学入門」高橋健夫他著 大修館書店
授業時間外における学習方法	・日常の中で気が付いた時には、意図をもって自身の身体を動かすことが望ましい。
成績評価の方法	・授業への参加意欲や態度 ・課題や提出物の期限厳守 ・友人との協力関係 ・技術到達度
その他・注意事項	・実技は動きやすい服装で受講。(日常の服、靴のままでは受講できない。見学とする。) ・スマートフォンを服のポケットの中に入れっぱなしにして実技には参加できない。貴重品箱の中に入れる。 ・髪の毛が肩を超える学生は必ず束ねる。爪は切る。アクセサリー類は身に着けない。 以上が守られない場合は見学扱い。(見学3回で欠席1回とする)

科 目 名	〈選択〉音楽表現	担当教員	赤津・白井・仕入・鉄矢・生田・毛塚
実施学期	通年		
授業形態	演習	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	子どもの生活と遊びにおいて主にピアノ演奏を通して、子どもの音楽表現を豊かにするための知識や技能を習得し、保育者としての指導力を養う。
授業の概要	保育の実践の場で生かせるピアノ演奏、及び弾き歌いの技術を身に付けると同時に、子どもの表現活動を支えるための音楽的な技能を習得する。

【授業計画】	
前期	後期
1 オリエンテーション	1 絵本から見える音
2 子どもの歌の変遷① 唱歌	2 絵本を音・音楽で表現
3 子どもの歌の変遷② 童謡	3 アンサンブル① 選曲・楽譜アレンジ
4 子どもの歌の変遷③ 現代のこどもの歌	4 アンサンブル② パート、分担奏
5 季節の歌の教材研究	5 アンサンブル③ 合わせる
6 行事・生活の歌の教材研究	6 楽曲アレンジの方法① 拍子・リズム
7 簡易伴奏の作り方① 旋律と根音	7 楽曲アレンジの方法② 調の変化
8 簡易伴奏の作り方② 旋律と和音	8 楽曲アレンジの方法③ 曲想の変化
9 簡易伴奏の作り方③ 両手伴奏	9 楽曲アレンジの方法④ 音の重なり
10 さまざまな伴奏パターン	10 楽曲アレンジ① 選曲と物語の構想
11 曲想に応じた伴奏の工夫	11 楽曲アレンジ② イメージによる音楽づくり
12 弾き歌いの発表	12 楽曲アレンジ③ シーンごとの変化
13 五音音階で即興演奏	13 楽曲アレンジ④ 発表
14 五音音階によるわらべうたづくり	14 楽曲アレンジ⑤ 省察
15 パフォーマンスアセスメント	15 子どもの表現活動を支える保育者の音楽的な専門性とは
定期試験	定期試験
テキスト	「ブルグミュラー25の練習曲」 全音楽譜出版「こどもの歌100」 小林美実監修、井戸和秀編 チャイルド本社出版 「続こどものうた200」小林美実編 チャイルド本社出版
参考文献	授業中に適宜資料を配布する。
授業時間外における学習方法	【事前学修】事前に出された演奏課題、発表課題については各自しっかり練習して臨むこと 【事後学修】授業で指導された練習課題を意識し、目標をもって計画的に毎日練習することを心掛け、課題達成をめざす。
成績評価の方法	前期後期ともまとめの実技試験を行う。 定期試験、授業の取り組みを総合して評価する。
その他・注意事項	授業の内容を踏まえ、テキストを読み直し、学習内容の定着を図る。

科 目 名	〈選択〉造形表現	担当教員	新名 佐和子
実施学期	通年		
授業形態	演習	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	造形表現指導に必要な知識や技能を実践的に習得する。 造形表現、鑑賞を自ら体験することにより、豊かな感性と表現について理解し、子どもの発達段階と表現の過程を大切にしたい評価ができるようになる。
授業の概要	各回の題材を、自ら造形表現に取り組むことで、具体的な保育の場面を想定し子どもの発達段階に応じた対応ができるように習得する。 素材と道具の扱い方の理解を深め、安全面を考慮した適切な教材準備をおこない、毎回の活動を記録する。

【授業計画】	
前期	後期
1 オリエンテーション かんたん絵本づくり(見立てあそび)	1 事務用丸シールで絵を作る
2 スクリブル 大きな紙に線を描いて紙の上を冒険しよう	2 ハロウィン工作 紙コップでシルクハット作り
3 モダンテクニック1 マーブルング	3 空き箱空き容器で動くのりもの工作
4 モダンテクニック2 デカルコマニー ドリッピング 吹き流し スパッタリング	4 風船はりこ工作1(成形)
5 モダンテクニック3 フロッタージュ コラージュ	5 風船はりこ工作2(ルームランプ制作、おめん・帽子制作)
6 風と空気で遊ぼう ビニール袋で造形遊び	6 ペットボトル工作
7 紙工作 くるくる変身カード カッターの使い方	7 ストロー笛、紙コップギター作り
8 紙工作 魚釣り	8 ポップアップカードの仕組みを学ぶ
9 新聞紙プール作り	9 ポップアップを利用したしかけ絵本作り(各ページ制作)
10 色水遊び	10 ポップアップを利用したしかけ絵本作り(製本)
11 モビール作り	11 SDGs題材裂織コースター作り、毛糸工作 指編み
12 プラ板工作	12 昔のおもちゃ作り ぶんぶんごま・のぼりにんぎょう他
13 ストップモーションアニメ制作(ICT)	13 紙ねんどあそび
14 逆再生ムービー制作(ICT)	14 クレイアニメ制作(ICT)
15 動画鑑賞会 前期造形題材まとめ	15 クレイアニメ鑑賞会 後期造形題材まとめ
定期試験	定期試験

テキスト	適宜資料配布
参考文献	保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説など
授業時間外における学習方法	・配布されたテンプレートに各回の活動の記録、制作物の写真を添付して題材ごとの資料としてまとめる。 ・次回授業用の材料の用意。
成績評価の方法	授業における意欲・態度、毎回の活動内容を配布するテンプレートに記入し最終授業でまとめたものを提出。 最終授業ではワークシートまとめとレポート提出。
その他・注意事項	絵の具などを扱うため、適宜作業に適した服装を用意すること。 絵の具、色鉛筆、マーカー、はさみ、のりなどは各自用意すること。

科 目 名	〈選択〉身体表現	担当教員	笠井 利恵
実施学期	通年		
授業形態	演習	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	身体表現に関する知識及び技能を習得する。 保育者として必要な幼児の身体表現に関する知識及び技能とその指導力を高める。 身体表現を通して自己理解、他者理解を深め、創造力を養う。
授業の概要	さまざまな身体表現の体験活動を通して、心と体を開放し主体的に表現することや互いの表現を認め合うことの楽しさや価値について考えるとともに、子どもの身体表現を支える保育者として必要な指導方法について理解を深める。

【授業計画】	
前期	後期
1 オリエンテーション	1 遊びやゲームから身体表現へ
2 心と体をほぐすエクササイズ	2 身近なものを使った身体表現(新聞紙、ビニール袋など)
3 幼児の身体表現遊び① (童歌からの発展)	3 親子のコミュニケーションダンス(発達にあわせた表現)
4 幼児の身体表現遊び② (手遊びからの発展)	4 絵本を題材とした身体表現遊び
5 いろいろなリズムの表現遊び	5 動きからイメージへ(走る、止まる、跳ぶ、転がるの基本の動き)
6 身体でコミュニケーション遊び(1人で、ペアで、グループで)	6 イメージから動きへ①(日常を題材にしたダンス)
7 コミュニケーションと表現(ミラーモーション、デッサン)	7 イメージから動きへ②(日常を題材にしたダンスの創作)
8 模倣と表現①(題材の特徴をとらえてなりきる)	8 型のある身体表現①(日本と外国のダンスの体験)
9 模倣と表現②(イメージと動き、幼小接続について)	9 型のある身体表現②(日本舞踊の体験)
10 身体表現を引き出す手立て(時間・空間・力性の理論と実践)	10 インプロビゼーション(オノマトペやイメージから即興表現)
11 幼児の表現遊びの指導① (発達にあわせた指導の工夫)	11 インプロビゼーション(即興表現から作品へ)
12 幼児の表現遊びの指導② (内容の組み立てや声掛けの工夫)	12 作品創作(グループ、テーマ、音楽の決定)
13 幼児のダンス創作(グループ、テーマ、音楽の決定)	13 作品創作(動きや構成の創作)
14 幼児のダンス創作(動きの創作)	14 作品創作(中間発表、衣装や小道具などの工夫)
15 発表と観賞	15 まとめ 発表と観賞
定期試験	定期試験
テキスト	適宜資料を配布する。
参考文献	幅広いジャンルの音楽や資料を活用して授業を行う。
授業時間外における学習方法	【事前学修】日常にある身近な題材を多面的に観察し、身体による表現方法について考察する。 【事後学修】授業の内容を記録し、要点をまとめる。
成績評価の方法	授業における意欲・態度、仲間との関わり、技能の学習成果を加味し、総合的に評価する。
その他・注意事項	動きやすく、自他ともに安全に配慮した服装で受講すること。

科 目 名	〈選択〉児童文化A	担当教員	荒巻 シャケ
実施学期	前期		
授業形態	演習	単 位	1単位

授業のテーマ及び到達目標	幅広い児童文化の中から、特に「歌」のついでに遊びをたくさんとりいれていく。昔から伝わっている遊びも大切にしながら、遊びをアレンジしたり、創作することにより、自由に遊びを展開する子ども達に、柔軟に向き合える力をつけていくことを目的に授業を進めていく。ただ遊びの引き出しを増やすだけでなく、その遊びを通して子ども達とどう関わっていくと良いのか？という視点も大切にしながら、遊びそのものについても考える機会にしていこう。
授業の概要	教員と学生の皆さんと一緒に創りながら、学びあっていく授業スタイルです。授業毎に遊びのテーマがあり、そのテーマについて、実際に遊んでみたり、その遊びをグループでアレンジして発表しあったりします。あそび歌・わらべうた・おにごっこ・ボードゲーム、など、実際に「遊ぶ」ことを大切にしている授業です。毎回の授業の終わりに、振り返りシートを記入してもらいます。

【授業計画】	
前期	後期
1 あそび歌①(手遊びについて遊びながら考えてみよう)	
2 あそび歌②(替え歌創作に挑戦してみよう)	
3 パネルシアター①	
4 パネルシアター②	
5 絵本の読み聞かせについて知ろう	
6 アナログゲーム①	
7 映像で見る子どものあそびと環境	
8 紙を使った遊び	
9 言葉遊び	
10 アナログゲーム②	
11 布を使った遊び	
12 ひもを使った遊び	
13 最終課題① (グループごとにテーマ決め)	
14 最終課題② (グループごとに発表準備)	
15 最終課題発表 (グループごとに発表)	
定期試験	

テキスト	パネルシアターキット「みかんぎゅぎゅぎゅ」
参考文献	その都度紹介します。
授業時間外における学習方法	次の授業のテーマになる遊びの種類などを調べてきてもらうことがあります。
成績評価の方法	授業内の実演 授業態度・遊びへの意欲
その他・注意事項	授業内容により教室が変わることがあります。真剣に遊ぶ気持ちをもっている学生の受講を待っています。

科 目 名	〈選択〉児童文化A	担当教員	澤村 明子
実施学期	後期		
授業形態	演習	単 位	1単位

授業のテーマ及び到達目標	児童文化の中で、特に子どもの成長、発達に欠かせない文化財である絵本とパネルシアターを中心に学ぶ。絵本は読み聞かせ技術の習得に加え、絵本への理解、子どもにあった絵本選択も学ぶ。 パネルシアターでは学生の個人作品の製作、発表を通じて、技術と表現力を高め子どもとのコミュニケーションの取り方を考え子どもとと遊べるパネルシアターの理解を深めていく。		
授業の概要	図書館などで沢山の絵本に出会い、持ち寄った絵本の読み合いをしながら絵本への理解を深めていく。 パネルシアターは基本の作品の紹介と特徴を毎回授業の初めに鑑賞してもらい、作品の多様性を実感していく。常に子どもの目線で反応してほしい。		
【授業計画】			
前期	後期		
	1 絵本とは何か？ 絵本丸ごと1冊観察		
	2 赤ちゃんと絵本 絆を育てる0.1.2歳児の絵本の読み合い		
	3 物語絵本のいろいろ 持ち寄った絵本の読み合い		
	4 おべんとう絵本を作ろう 丸だけの絵で絵本を作る		
	5 おべんとう絵本の発表と講評		
	6 シアター系児童文化財のいろいろ(紙芝居、エプロンシアター等)		
	7 パネルシアターの作品鑑賞(基本作品の紹介)		
	8 パネルシアターの作品鑑賞(歌が中心の作品)と「きゅうりさん」製作		
	9 パネルシアターの作品鑑賞(手遊び中心作品)と「きゅうりさん」発表		
	10 パネルシアターの作品鑑賞(クイズ) 個人作品製作(下絵の写し)		
	11 パネルシアターの作品鑑賞(お話) 個人作品製作(彩色する)		
	12 パネルシアターの作品鑑賞(お話) 個人作品製作(しかけを作る)		
	13 パネルシアターの作品鑑賞(ブラックシアター)個人作品製作仕上げ		
	14 パネルシアター個人発表練習と発表		
	15 パネルシアター個人発表と振り返りレポート提出		
	定期試験		
テキスト	適宜資料を配布する。		
参考文献	参考図書、教材、必要な材料に関しては、授業の中で適宜紹介する。		
授業時間外における学習方法	図書館、書店などに足を運び、様々な絵本があることを実感してほしい。また読み合いの時には絵本を持参してもらう。 パネルシアターの作品は授業内で仕上げられない場合は、時間を作り仕上げること。 作品発表の前には練習を5回以上して、発表に臨んでください。		
成績評価の方法	授業中の演習課題発表(60%) 授業内の参加姿勢(20%) レポート提出(20%)		
その他・注意事項	パネルシアターの作品の下絵は、期間中は学校に置いておくので沢山作ってください。		

科 目 名	〈選択〉児童文化B	担当教員	澤村 明子
実施学期	前期		
授業形態	演習	単 位	1単位

授業のテーマ及び到達目標	児童文化の中で、特に子どもの成長、発達に欠かせない文化財である絵本とパネルシアターを中心に学ぶ。絵本は読み聞かせ技術の習得に加え、絵本への理解、子どもにあった絵本選択も学ぶ。 パネルシアターでは学生の個人作品の製作、発表を通じて、技術と表現力を高め子どもとのコミュニケーションの取り方を考え子どもと遊べるパネルシアターの理解を深めていく。
授業の概要	図書館などで沢山の絵本に出会い、持ち寄った絵本の読み合いをしながら絵本への理解を深めていく。 パネルシアターは基本の作品の紹介と特徴を毎回授業の初めに鑑賞してもらい、作品の多様性を実感していく。常に子どもの目線で反応してほしい。

【授業計画】	
前期	後期
1 絵本とは何か？絵本丸ごと1冊観察	
2 赤ちゃんと絵本 絆を育てる0.1.2歳児の絵本の読み合い	
3 物語絵本のいろいろ 持ち寄った絵本の読み合い	
4 おべんとう絵本を作ろう 丸だけの絵で絵本を作る	
5 おべんとう絵本の発表と講評	
6 シアター系児童文化財のいろいろ(紙芝居、エプロンシアター等)	
7 パネルシアターの作品鑑賞(基本作品の紹介)	
8 パネルシアターの作品鑑賞(歌が中心の作品)と「きゅうりさん」製作	
9 パネルシアターの作品鑑賞(手遊び中心作品)と「きゅうりさん」発表	
10 パネルシアターの作品鑑賞(クイズ) 個人作品製作(下絵の写し)	
11 パネルシアターの作品鑑賞(お話) 個人作品製作(彩色する)	
12 パネルシアターの作品鑑賞(お話) 個人作品製作(しかけを作る)	
13 パネルシアターの作品鑑賞(ブラックシアター)個人作品製作仕上げ	
14 パネルシアター個人発表練習と発表	
15 パネルシアター個人発表と振り返りレポート提出	
定期試験	

テキスト	適宜資料を配布する。
参考文献	参考図書、教材、必要な材料に関しては、授業の中で適宜紹介する。
授業時間外における学習方法	図書館、書店などに足を運び、様々な絵本があることを実感してほしい。また読み合いの時には絵本を持参してもらう。 パネルシアターの作品は授業内で仕上げられない場合は、時間を作り仕上げる。 作品発表の前には練習を5回以上して、発表に臨んでください。
成績評価の方法	授業中の演習課題発表(60%) 授業内の参加姿勢(20%) レポート提出(20%)
その他・注意事項	パネルシアターの作品の下絵は、期間中は学校に置いておくので沢山作ってください。

科 目 名	〈選択〉児童文化B	担当教員	清水 百合香
実施学期	後期		
授業形態	演習	単 位	1単位

授業のテーマ及び到達目標	・本授業では「児童文化」「児童文化財」について、理論と実践を往還的に学びながら、保育者が遊びの伝承者であることを理解し、児童文化の担い手となることの必要生を知る。また子どもの遊びを豊かにする環境を整えることの大切を学ぶ。 ・本授業では、実践演習を主体とする授業の中で、幼児の心に躍動感をもたらし、感性豊かな心・表現力を育てるために、保育者としての基本的スキルを身に着けることを目的とする。
授業の概要	・「子どもの遊び」を体験学習する中で、興味をもったり、不思議がったり、面白がったりなど、驚きや喜びを感じる「子どもの心」に触れる擬似体験をする。 ・現在社会の変化の中で、遊びの三間(時間・空間・仲間)の減少により、子どもたちが保証されるべき豊かな環境が失われ、遊びが伝承されにくい環境になっている。そのため、日本文化や遊びを継承し、子どもの豊かな心・感性や表現力を育てる保育者の役割及び保育実践に必要な児童文化の表現技術・技能の初歩について、実践を通して学ぶ。

【授業計画】	
前期	後期
	1 オリエンテーション 授業の取り組み方 2 保育の歴史と遊びー 児童文化の伝承者として 3 遊びを通しての子どもの発達ー 手遊び・言葉遊び・わらべ歌遊び 4 遊びを通しての子どもの発達ー 素材を使つての製作遊び 5 遊びを通しての子どもの発達ー 絵本や物語との出会いの中で 6 伝承遊びの魅力ー 折り紙製作と伝統行事 7 伝承遊びの魅力ー わらべうたで遊ぼう 8 伝承遊びの魅力ー コマを回して遊ぼう 9 伝承遊びの魅力ー 凧を作つて遊ぼう 10 保育への展開ー ごっこ遊びの魅力(1) イメージしたものを製作 11 保育への展開ー ごっこ遊びの魅力(2) 表現して遊ぼう 12 保育への展開ー ペープサートを作つて演じよう 13 模擬保育準備(1)手袋人形を使って創作人形劇 14 模擬保育準備(2)手袋人形を使って創作人形劇 15 まとめ 発表
定期試験	定期試験

テキスト	『演習 児童文化 保育内容として実践と展開』小川清実編著 萌文書林
参考文献	『たのしい手あそびうた』阿部恵編著 ナツメ社 『子どもに伝えたい 伝承遊び』小川清実著 萌文書林 『ことばと表現力を育む 児童文化』川勝泰介・浅岡靖央・生駒幸子編著 萌文書林 ＊授業中に適宜資料を配布する。
授業時間外における学習方法	講義の他に、教材研究、製作・発表を中心に行うため、授業準備や予習及び復習を積極的に行う。
成績評価の方法	レポート提出(20%)・実演課題(20%)・製作課題・課題の取り組み方など(20%)・試験(実演40%)
その他・注意事項	活動的で汚れても大丈夫な服装で参加するようにしてください。

科 目 名	(選択)保育教材研究	担当教員	小川 貴代子
実施学期	前期		
授業形態	演習	単 位	1単位

授業のテーマ及び到達目標	保育教材は乳幼児が活動し、より発展・展開するものとして捉える。授業の演習や教育・保育実習の体験を通して保育実践に役立つ教材の研究をするとともに乳幼児の成長発達に即した活動の保育教材を考案し製作する。 1. 保育教材の研究の仕方 2. 保育のねらいや活動にふさわしい教材を選択する力を身に付ける 3. 保育教材を工夫し、さらに研究する力を付ける
授業の概要	保育教材は保育内容の具現化されたものである。保育教材の研究や準備は、保育計画の中心課題であると言える。何気なく見過ごしている様々な事象に興味・関心を持ち教材研究を行い、教材として活用できる力を付けるように実践する。製作した教材は実際に使い、模擬保育を行い相互評価する、操作・表現・方法など身に付ける。

【授業計画】	
前期 1 オリエンテーション 2 手袋シアター製作①(計画・準備・型紙づくり) 3 手袋シアター製作②(人形づくり) 4 手袋シアター製作③(仕上げ) 5 手袋シアター発表会 6 飛び出す棒人形「お花の妖精メロディちゃん」製作①(計画・準備・型紙づくり) 7 飛び出す棒人形「お花の妖精メロディちゃん」製作②(人形づくり) 8 飛び出す棒人形「お花の妖精メロディちゃん」製作③(仕上げ) 9 飛び出す棒人形「お花の妖精メロディちゃん」発表会 10 壁面製作(7月～12月) 11 保育における児童文化財①(布を使用した保育教材の計画・準備・型紙づくり) 12 保育における児童文化財②(布を使用した保育教材の作成) 13 保育における児童文化財③(布を使用した保育教材の仕上げ) 14 保育における児童文化財・発表会 15 保育における児童文化財・まとめ 定期試験	後期

テキスト	図書室の本を参考にし、活用する。
参考文献	参考図書・教材・必要な材料については、授業の中で適宜紹介する。
授業時間外における学習方法	児童文化の分野、環境の視野を広げる。作品を長く活用できるよう丁寧に仕上げる。
成績評価の方法	授業への参加姿勢、手作り教材の各自の工夫、模擬保育の内容、提出期限の厳守を総合的に評価する。
その他・注意事項	事前にシラバス等を確認し、必ず製作に必要な材料を用意して授業に望むこと。提出期限を必ず遵守し、計画的に教材製作をすること。

科 目 名	〈選択〉保育教材研究	担当教員	中村 香津美
実施学期	後期		
授業形態	演習	単 位	1単位

授業のテーマ及び到達目標	保育教材は乳幼児が活動する中で、より発展・展開するものとして捉える。授業の演習や教育・保育実習の体験を通して保育実践に役立つ教材の研究をするとともに乳幼児の成長発達に即した活動の保育教材を考案し製作する。 1. 保育教材の研究の仕方を学ぶ 2. 保育のねらいや活動にふさわしい教材を選択する力を身に付ける 3. 保育教材を工夫し、さらに研究する力を付ける
授業の概要	保育教材は保育内容の具現化されたものである。保育教材の研究や準備は、保育計画の中心課題であると言える。何気なく見過ごしている様々な事象に興味・関心を持ち教材研究を行い、教材として活用できる力を付けるように実践する。製作した教材は実際に使い、模擬保育を行い相互評価する、操作・表現・方法など身に付ける。

【授業計画】	
前期	後期
1	1 オリエンテーション・パネルシアター①（計画・準備）
2	2 パネルシアター②（下絵の作業）
3	3 パネルシアター ③（色塗り等の作業）
4	4 パネルシアター ④（仕上げ・発表準備）
5	5 パネルシアター 発表
6	6 スケッチブックシアター ①（計画・準備・下絵の作業）
7	7 スケッチブックシアター ②（色塗り等の作業）
8	8 スケッチブックシアター ③（仕上げ・発表準備）
9	9 スケッチブックシアター発表
10	10 壁面製作 （1月～6月）
11	11 開いて広がるおもしろカード製作
12	12 誕生カード製作
13	13 誕生カード発表
14	14 保育における児童文化財・発表
15	15 発表・まとめ
	定期試験

テキスト	図書室の本を参考にし、活用する。
参考文献	参考図書・教材・必要な材料については、授業の中で適宜紹介する。
授業時間外における学習方法	児童文化の分野、環境の視野を広げる。作品を長く活用できるよう丁寧に仕上げる。
成績評価の方法	授業への参加姿勢、手作り教材の各自の工夫、模擬保育の内容、提出期限の厳守を総合的に評価する。
その他・注意事項	事前にシラバス等を確認し、必ず製作に必要な材料を用意して授業に望むこと。提出期限を必ず遵守し、計画的に教材製作をすること。

科 目 名	発達心理学Ⅱ	担当教員	梶山 菜乃葉
実施学期	通年		
授業形態	演習	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	1年次で学んだ発達心理学Ⅰをさらに発展させ、生涯発達の視点から人間の誕生から死に至るまでの過程を学ぶ。自分自身の人生を振り返りながら学び、保育者として今後関わっていく人間や自分自身について理解する。そして、生涯発達の過程の初期に携わる者としての考えや知識を深めることを目標とする。
授業の概要	問題演習やグループディスカッションを取り入れ、受講者が能動的に参加できる形式で授業を進める。授業内で取り扱う内容について、受講者同士で考えを共有する。また、問題演習を行い、その日取り扱った内容についての理解度を確認する。後期の後半は、保育者として特に学んでおきたい内容について集中的に学ぶ。

【授業計画】	
前期	後期
1 授業内容の概略と進め方について	1 前期の振り返り
2 発達心理学の考え方 「心」とはなにか	2 発達におけるつまずき 「発達障害」「自閉スペクトラム症」「ADHD」
3 発達するとは？ 「生物学的要因」「環境的要因」	3 発達におけるつまずき 「虐待」「アタッチメント」「いじめ」
4 生命の芽生えから誕生まで「胎芽期」「身体の発達」	4 大人になるために 「モラトリアム」「アイデンティティ」「ステレオタイプ」
5 出生をめぐる問題「出生前診断」「対人援助職」	5 大人になるために 「家庭生活」「ライフコース」「性役割感」
6 赤ちゃんが捉える世界「ピアジェの認知発達段階」「対象の永続性」「スキーマ」	6 関わりの中で成熟する 「中年期」「親の成長」「養護性」
7 コミュニケーションと人間関係	7 関わりの中で成熟する 「子どもの自立」「夫婦関係」「ジェネレイショナル・サイクル」
8 コミュニケーションと人間関係 「愛着」「ストレンジシチュエーション」「内的作業モデル」	8 人生を振り返る 「加齢」「認知症」「家族関係」
9 言語と遊びの発達 「象徴機能」「共同注意」	9 保育者のための発達心理学 「最近説発達領域」「基礎理論」「重要人物と理論」
10 多様な関係が支える発達 「第一次反抗期(自己主張期)」「自己意識的感情」	10 保育者のための発達心理学 前回の振り返りと理解度到達チェック
11 多様な関係が支える発達 「自己制御」「エフォートフル・コントロール」	11 保育者のための発達心理学「発達段階」「発達障害」
12 仲間の中での育ち「心の理論」「実行機能」「ギャング・グループ」	12 保育者のための発達心理学 前回の振り返りと理解度到達チェック
13 思考の深まりと学校での学び「ワーキングメモリ」「記憶の仕組み」「動機づけ」	13 保育者のための発達心理学 「心の問題」「選択制減黙」「児童虐待」
14 子供からの卒業 「青年期」「自己理解」「自己への否定的感情」	14 保育者のための発達心理学 前回の振り返りと理解度到達チェック
15 子供からの卒業 「友人関係」「恋愛関係」「親子関係」	15一年の学びの振り返りとまとめの作成
定期試験	定期試験

テキスト	問からはじめる発達心理学 生涯にわたる育ちの科学 阪上裕子・山口智子・林創・中間玲子 有斐閣 2024年版
参考文献	保育所保育指針解説
授業時間外における学習方法	次回取り扱う教科書の内容について、自身の経験と照らし合わせてイメージをしておくこと。
成績評価の方法	授業への参加姿勢・授業内課題・諸活動への取り組み・定期試験の結果を総合的に判断して評価する。
その他・注意事項	授業を通して、保育者としての立場も含めた自身の考えや知識を深めてもらいたいと思っています。授業内で行う諸活動には是非積極的に参加してください。

科 目 名	(選択)臨床心理学A	担当教員	野口 菜実
実施学期	通年		
授業形態	演習	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	前期:メンタルヘルスリテラシーと心理・発達アセスメントの基本的知識について理解する。 後期:心理療法の基本的知識とカウンセリングの手法について理解を深める。
授業の概要	講義とグループによるワークを通して、メンタルヘルスの正しい知識、心理・発達アセスメントや代表的な心理療法の基本的知識、及びカウンセリングの基本的姿勢について学ぶ。 これらの臨床心理の視点を身につけることで、保育現場で出会う可能性のある子どもや保護者に対して、保育者として「こころ」に向き合い、より良い他者協働ができるようになる。

【授業計画】	
前期	後期
1 臨床心理学を学ぶこと～授業の目的と進め方	1 心理療法(1)概論
2 メンタルヘルスリテラシー(1)概論	2 心理療法(2)精神分析
3 メンタルヘルスリテラシー(2)ストレス①不安	3 心理療法(3)行動療法
4 メンタルヘルスリテラシー(3)ストレス②PTSD	4 心理療法(4)認知行動療法
5 メンタルヘルスリテラシー(4)不安障害、パーソナリティ障害	5 心理療法(5)遊戯療法・箱庭療法
6 メンタルヘルスリテラシー(5)うつ病とよくうつ障害、統合失調症	6 心理療法(6)パーソンセンタードアプローチ、人間性心理学
7 心理アセスメントについて(1)概論	7 カウンセリングの技法(1)概論
8 心理アセスメントについて(2)描画法	8 カウンセリングの技法(2)傾聴の基本的姿勢と質問の仕方
9 心理アセスメントについて(3)質問紙法	9 カウンセリングの技法(3)言い換えと要約
10 心理アセスメントについて(4)発達検査	10 カウンセリングの技法(4)感情の反映と焦点化
11 メンタルヘルスリテラシー(6)発達障害	11 心理療法(7)家族療法、ナラティブ・セラピー
12 メンタルヘルスリテラシー(7)小児期の心理的障害	12 乳幼児期の心理的問題(2)育児不安とマルトリートメント
13 心理アセスメントについて(5)観察法について	13 心理療法(8)コミュニティアプローチ、協働と他機関連携
14 乳幼児期の心理的問題(1)「気になる子」への対応と特別支援	14 保育士として、社会人としての生きがい・やりがい
15 振り返りとまとめ	15 振り返りとまとめ
定期試験	定期試験
テキスト	『絶対役立つ臨床心理学』藤田哲也監修 ミネルヴァ書房 その他、適宜資料を配布
参考文献	『よく分かる臨床心理学』下山晴彦 et al. ミネルヴァ書房
授業時間外における学習方法	この授業では復習が重要なので、テキストや資料を読み直して学習内容の定着を各自で行うこと。 カウンセリングの知識や基本姿勢を学び、日常生活や保育での現場に生かしてほしい。
成績評価の方法	授業の参加態度(グループワークへの参加を含む)と定期試験を総合的に評価する。 遅刻・欠席・無断早退・私語は減点の対象とする。自分の出席については把握しておくこと。
その他・注意事項	授業ではグループ形式のワークを行う。積極的に参加して自己理解と他者理解の礎にしてほしい。

科 目 名	(選択)臨床心理学B	担当教員	三科 千裕(前期)
実施学期	通年		鳥羽 翔太(後期)
授業形態	演習	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	臨床心理学の基礎的な知識の獲得と、その具体的な応用方法を理解することで、以下の三点を身につけることを目的とする。 ①自己への理解を深める。 ②保育現場で遭遇する子どもや保護者、その他多様な人物を理解する視点を持つ。 ③心理の専門家との連携を効果的に行うための視点を獲得する。
授業の概要	臨床心理学の様々な基礎理論を理解し、保育現場で遭遇すると想定される具体的な場面への適用をワークやグループでの発表を通して学ぶ。

【授業計画】	
前期	後期
1 オリエンテーション 臨床心理学とは	1 自己理解とセルフマネジメント
2 臨床心理学理論1-1 精神分析(1) フロイトと自我心理学	2 臨床心理学と基礎心理学(1) 発達とパーソナリティ
3 臨床心理学理論1-2 精神分析(2) 対象関係論	3 臨床心理学と基礎心理学(2)アタッチメントとメンタライゼーション
4 臨床心理学理論2 クライアント中心療法	4 心理アセスメント(1)面接法
5 臨床心理学理論3 認知行動療法	5 心理アセスメント(2)観察法
6 生涯発達とこころの問題(1) 乳児期～児童期	6 心理アセスメント(3)検査法
7 生涯発達とこころの問題(2) 思春期・青年期	7 臨床心理学理論4分析心理学
8 生涯発達とこころの問題(3) 成人期以後	8 さまざまな心理療法(2) 夢分析、箱にわ療法
9 こころの病(精神疾患)	9 臨床心理学理論5 家族療法
10 発達障害の理解と支援(1) 概論	10 さまざまな心理療法(2) アタッチメント理論に基づく親子支援
11 発達障害の理解と支援(2)アプローチ	11 臨床心理学理論6コミュニティ心理学
12 保育と臨床心理学	12 臨床心理学理論7人間性心理学
13 さまざまな心理療法(1)プレイセラピー	13 さまざまな心理療法(4)その他の心理療法
14 連携とコミュニケーション	14 臨床心理学理論8統合的視点
15 まとめ	15 まとめ
定期試験	定期試験

テキスト	プリントを配布する。
参考文献	『よくわかる臨床心理学 改訂新版』 下山晴彦 編 ミネルヴァ書房適宜、授業において紹介していく。
授業時間外における学習方法	授業において紹介した参考文献を読み理解を深める。 また、授業で学んだ知識を日常生活に用いて、自身や他者を理解し、実践知としての学びを深めてほしい。
成績評価の方法	試験60% 授業における意欲・関心・態度(グループワーク含む)40%
その他・注意事項	単なる知識の獲得に終始せず、臨床心理学に通底する自他のこころや行動を理解しようとする姿勢である「カウンセリングマインド」を感じ取り、身につけてほしい。

科 目 名	保育実習指導Ⅱ	担当教員	上藤 千香子
実施学期	前期		小川 貴代子
授業形態	演習	単 位	1単位

授業のテーマ及び到達目標	保育実習Ⅰを踏まえ、それぞれが課題に対する目的意識をもって臨み未習得の分野も自ら計画をし積極的に進めていく。実習は授業で学んだすべての教科の応用であり、それらの学習が実習の場の中で実証されていく。そして、自分自身の不十分なところを明確にすることで、次の課題が見えてくる。 1. 乳幼児の発達過程を理解する。 2. 実践の場で活かせるように指導案を作成、教材の準備などができるようにする。 3. 実習日誌の記録の書き方を確認する。
授業の概要	1. 保育実習Ⅱ(責任実習)の実践を行うための指導案を作成し、実戦に向けての指導技術と援助のしかたを探る。 2. 模擬演習を通して皆で学び合い、実践の質を高める。 3. 実習終了後の今後の課題を確認する。

【授業計画】	
前期	後期
1 責任実習について 2 オリエンテーションについて(事前・事後) 3 保育の流れに沿うプログラムを考える (月案・週案・日案、主活動) 4 導入について(手遊びを調べて発表、指導技術、指導案の立案) 5 日案作成(主活動についての再案－晴天・雨天時) 6 活動の進め方の実践演習(模擬保育) 7 活動の進め方の実践演習(模擬保育の振り返り) 8 さまざまな子どもたちの関わりと保育形態 9 実習日誌の書き方 10 子どもの発達について 11 実習事前課題について(教材製作と発表) 12 実習の振り返りとまとめ・お礼状 13 実習事後課題について(エピソード記録) 14 子育て支援と保育のキーワード 15 子ども観・保育観 6	
テキスト	「保育実習の手引き」竹早教員保育士養成所 「保育所保育指針解説」厚生労働省 フレーベル館 2018年
参考文献	適宜必要に応じて資料などを配布する。
授業時間外における学習方法	子どもの成長発達段階を家庭で復習するように課題を出し、模擬保育の実践につなげる。 実習指導の中で各自責任実習の内容を事前に準備し、全体や小グループで発表ができるようにする。
成績評価の方法	授業態度、課題の提出物により、総合的に評価する。
その他・注意事項	規定以上の欠席者は、保育実習への参加はできない。

科 目 名	保育実習指導Ⅲ	担当教員	大井 靖
実施学期	前期		
授業形態	演習	単 位	1単位

授業のテーマ及び到達目標	児童福祉施設等の役割や機能を理解し、養護の知識・技能を学ぶ。 質の高い生活を目指して、ニーズに応じた支援ができるように、学びを深める。
授業の概要	利用者の実態を理解・把握し、ニーズに応じた支援をする。個別の支援計画を作成・活用した支援についても学ぶ。 そして、施設の役割・機能について理解し、保育士の業務内容や職業倫理について理解を深める。

【授業計画】	
前期	後期
1 施設実習のねらい・意義	
2 施設実習の内容・実習日誌	
3 施設の役割・機能	
4 利用者の実態・生活・個性	
5 実態に応じた支援	
6 養護の一日の流れ、利用者とのコミュニケーション	
7 養護の知識・技能	
8 個別の支援計画	
9 保育士の業務・倫理	
10 ニーズに応じた質の高い支援	
11 実習課題	
12 責任実習指導案	
13 地域との連携	
14 今後の課題、自己課題の明確化	
15 まとめ	

テキスト	「保育所保育指針」、「認定こども園教育・保育要領」 「保育実習の手引き」 竹早教員保育士養成所
参考文献	「施設実習 パーフェクトガイド」 守巧、小櫃智子、二宮祐子、佐藤恵著 わかば出版
授業時間外における学習方法	実習教材の作成
成績評価の方法	提出物や授業への取り組み等を総合的に評価する
その他・注意事項	実習課題を明確にする

科 目 名	保育実習Ⅱ	担当教員	2年担任
実施学期	前期		
授業形態	実習	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	・保育所の保育を実践し、保育に関する全般的な技術を習得する。 ・保育所で働くさまざまな職種の仕事内容や役割、チームワークを理解する。 ・家庭が置かれている実態に触れ、保護者とコミュニケーションを図り、子育てを支援することへの理解を深める。 ・保育全般の理解と専門職としてふさわしい人間性について学ぶ。
授業の概要	保育実習Ⅰの経験を踏まえ、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。 責任実習をし、集団指導の具体的な指導、援助の方法を経験する。

【授業計画】	
前期	後期 ●責任実習 ◎保育実習Ⅰの内容を基本として実践に挑む。 ◎デイリープログラム(日課表)に基づく保育所生活を体験しながら、日課の意味と内容について、具体的に理解を深める。 ◎保育全般に参加し、保育技術を習得する。 ・配属された年齢やクラスの特徴を把握し、さまざまな実践場面で、個別指導と集団指導の具体的な指導、援助の方法を経験する。 ・活動の進め方、教材や用具、遊具の活用の仕方、子どもへの援助や助言の仕方など、指導技術の基礎を身に付ける。 ◎指導計画を理解し立案、実践する。 ・実習園の保育課程や指導計画(年間・月・週)の全体的体系を理解する。 ・配属クラスの計画立案の趣旨を保育の実践を踏まえて理解する。 ・配属クラスの担当者と相談しながら子どもの状況を把握した上で、日案を立案し実践する。 ◎保育士としての資質や態度を習得する。 ・保育者の姿勢を正しくとらえ、温かさ、明るさ、包容力など専門職としてふさわしい人間性について学ぶ。 ・職業人としての規律、礼儀などについて自覚的に学ぶ。 ◎チームワークについて ・看護師、栄養士、調理師、非常勤保育士、用務員などさまざまな職種との役割分担や協力の姿勢について学ぶ。 ・クラス担任同士の役割分担や協力の姿勢について学ぶ。 ◎配属されたクラスの保護者に対する支援の様子を担当保育士の具体的な対応を通して学ぶ。 ◎保育実習日誌に実践した内容を整理して記録し、担当者に提出する。 ＊地域子育て支援事業に触れる機会があれば経験させていただく。

テキスト	「保育実習の手引き」(竹早教員保育士養成所)
参考文献	
授業時間外における学習方法	責任実習の計画を立てる。指導案の作成、教材の準備などの過程の中で、自分の不足なところや苦手なことを努力する
成績評価の方法	実習園による評価結果に基づく
その他・注意事項	欠席者には、補充実習を行う。ただし、3日以上欠席は再実習になる。

科 目 名	保育実習Ⅲ	担当教員	2年担任
実施学期	前期		
授業形態	実習	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	児童福祉施設等の養護を実践し、保育士として必要な資質・能力・技能を習得する。 利用者の実態を理解し、質の高い生活を目指して、ニーズに応じた支援を行う。 そして、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。
授業の概要	施設の役割や機能について、実践を通して理解を深める。利用者の理解を基に、支援のための知識・技術・判断力を養う。 職員間の連携・協力について学び、利用者の思いに寄り添い、一人一人のニーズに対応した適切な支援を行う。

【授業計画】	
前期	後期
1 利用者の生活の理解 2 利用者の個性や生活の背景の理解 3 施設の役割や機能や使命についての理解 4 利用者一人一人に応じた支援 5 養護技術の習得 6 施設の養護計画の理解 7 質の高い生活を目指した自立支援 8 保育士の業務内容と職業倫理 9 職員間の連携・協力と連絡・引継ぎ 10 利用者とのコミュニケーションと信頼関係 11 責任実習指導案の作成と実施 12 保育士の資質・能力・技術 13 地域社会の理解と連携 14 自己課題の明確化 15 まとめ	

テキスト	「保育所保育指針」、「認定こども園教育・保育要領」 「保育実習の手引き」 竹早教員保育士養成所
参考文献	「施設実習 パーフェクトガイド」 守巧、小櫃智子、二宮祐子、佐藤恵著 わかば出版
授業時間外における学習方法	実習教材の作成
成績評価の方法	実習態度や実習成果等を総合的に判断。実習先の評価(実習態度、実習内容、実習記録)を踏まえて。
その他・注意事項	実習課題を明確にする。